

出エジプト記

第一章

「さて、ヤコブと共に、おのおのその家族を伴って、エジプトへ行ったイスラエルの子らの名は次のとおりである。二すなわちルベン、シメオン、レビ、ユダ、ミッサカル、ゼブルン、ベニヤミン、四ダン、ナフタリ、ガド、アセルであった。五ヤコブの腰から出たものは、合わせて七十人。ヨセフはすでにエジプトにいた。六そして、ヨセフは死に、兄弟たちも、その時代の人々もみな死んだ。七けれどもイスラエルの子孫は多くの子を生み、ますますふえ、はなはだ強くなって、国に満ちるようになった。」

「ここに、ヨセフのことを知らない新しい王が、エジプトに起った。九彼はその民に言った、「見よ、イスラエルびとなるこの民は、われわれにとつて、あまりにも多く、また強すぎる。一〇さあ、われわれは、抜かりなく彼らを取り扱おう。彼らが多くなり、戦いの起るとき、敵に味方して、われわれと戦い、ついにこの国から逃げ去ることのないようにしよう。二そこでエジプトびとは彼らの上に監督をおき、重い労役をもって彼らを苦しめた。彼らはバロのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。三しかしイスラエルの人々が苦しめられるにした

がって、いよいよふえひろがるので、彼らはイスラエルの人々のゆえに恐れをなした。三エジプトびとはイスラエルの人々をきびしく使い、四つらい務をもってその生活を苦しめた。すなわち、しつこいこね、れんが作り、および田畑のあらゆる務に当らせたが、そのすべての労役はきびしかった。」

「五またエジプトの王は、ヘブルの女のために取上げをする助産婦でひとり名をシフラといい、他のひとり名をプアという者にさとして、六言った、「ヘブルの女のために助産をするとき、産み台の上を見て、もし男の子ならばそれを殺し、女の子ならば生かしておきなさい。七しかし助産婦たちは神をおそれ、エジプトの王が彼らに命じたようにはせず、男の子を生かしておいた。八エジプトの王は助産婦たちを召して言った、「あなたがたはなぜこのようなことをして、男の子を生かしておいたのか。九助産婦たちはバロに言った、「ヘブルの女はエジプトの女とは違い、彼女たちは健やかで助産婦が行く前に産んでしまします。一〇それで神は助産婦たちに恵みをほどこされた。そして民はふえ、非常に強くなった。二助産婦たちは神をおそれたので、神は彼女たちの家を榮えさせられた。三そこでバロはそのすべての民に命じて言った、「ヘブルびとに男の子が生れたならば、みなナイル川に投げこめ。しかし女の子はみな生かしておけ。」

第二章

「さて、レビの家のひとりの人が行っ

てレビの娘をめぐった。二女はみごもって、男の子を産んだが、その麗しいのを見て、三月のあいだ隠していた。しかし、もう隠しきれなくなったので、パピルスで編んだかごを取り、それにアスファルトと樹脂とを塗って、子をその中に入れ、これをナイル川の岸の葦の中においた。四その姉は、彼がどうされるかを知ろうと、遠く離れて立っていた。五ときにパロの娘が身を洗おうと、川に降りてきた。侍女たちは川べを歩いてしたが、彼女は葦の中にかごのあるのを見て、つかえめをやり、それを取ってこさせ、六あけて見ると子供がいた。見よ、幼な子は泣いていた。彼女はかわいそうに思ってしまった、「これはヘブルびとの子供です」。七そのとき幼な子の姉はパロの娘に言った、「わたしが行ってヘブルの女のうちから、あなたのために、この子に乳を飲ませるうばを呼んでまいりましょうか」。八パロの娘が「行ってきてください」と言うのと、少女は行ってその子の母を呼んできた。九パロの娘は彼女に言った、「この子連れて行って、わたしに代り、乳を飲ませてください。わたしはその報酬をさしあげます」。女はその子を引き取って、これに乳を与えた。一〇その子が成長したので、彼女はこれをパロの娘のところに連れて行った。そして彼はその子となった。彼女はその名をモーセと名づけて言った、「水の中からわたしを引き出したからです」。

二モーセが成長した後、ある日のこと、同胞の所に出

て行って、そのはげしい労役を見た。彼はひとりのエジプトびとが、同胞のひとりであるヘブルびとを打つのを見たので、三左右を見まわし、人のいないのを見て、そのエジプトびとを打ち殺し、これを砂の中に隠した。四次の日また出て行って、ふたりのヘブルびとが互に争っているのを見、悪い方の男に言った、「あなたはなぜ、あなたの友を打つのですか」。五彼は言った、「だれがあなたを立てて、われわれのつかさ、また裁判人としたのですか。エジプトびとを殺したように、あなたはわたしを殺そうと思うのですか」。モーセは恐れた。そしてあの事がきくと知れたのだと思った。六パロはこの事を聞いて、モーセを殺そうとした。

しかしモーセはパロの前をのがれて、ミデヤンの地に行き、井戸のかたわらに座していた。七六さて、ミデヤンの祭司に七人の娘があった。彼女たちはきて水をくみ、水槽にみたして父の羊の群れに飲ませようとしたが、八羊飼たちがきて彼女らを追い払ったので、モーセは立ち上がって彼女たちを助け、その羊の群れに水を飲ませた。九彼女たちが父リウエルのところに帰った時、父は言った、「きょうは、どうして、こんなに早く帰ってきたのか」。一〇彼女たちは言った、「ひとりのエジプトびとが、わたしたちを羊飼たちの手から助け出し、そのうえ、水をたくさんくんで、羊の群れに飲ませてくれたのです」。一〇彼は娘たちに言った、「そのかたはどこにおられるか」。

なぜ、そのかたをおいてきたのか。呼んできて、食事をさしあげなさい。」三 モーセがこの人と共にいることを好んだので、彼は娘のチツボラを妻としてモーセに与えた。三 彼女が男の子を産んだので、モーセはその名をゲルシヨムと名づけた。「わたしは外国に寄留者となっている」と言ったからである。

三 多くの日を経て、エジプトの王は死んだ。イスラエルの人々は、その苦役の務のゆえにうめき、また叫んだが、その苦役のゆえの叫びは神に届いた。二 神は彼らのうめきを聞き、神はアブラハム、イサク、ヤコブとの契約を覚え、二 神はイスラエルの人々を顧み、神は彼らをしろしめされた。

第三章 モーセは妻の父、ミデヤンの祭司エテロの羊の群れを飼っていたが、その群れを荒野の奥に導いて、神の山ホレブにきた。二 ときに主の使は、しばの中の炎のうちに彼に現れた。彼が見ると、しばは火に燃えているのに、そのしばはなくならなかった。三 モーセは言った、「行ってこの大きな見ものを見、なぜしばが燃えてしまわないかを知ろう。」四 主は彼がきて見定めようとするのを見、神はしばの中から彼を呼んで、「モーセよ、モーセよ」と言われた。彼は「ここにいます」と言った。五 神は言われた、「ここに近づいてはいけない。足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである。」六 また言われた、「わたしは、あなたの

先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは神を見、そのことを恐れたので顔を隠した。七 主はまた言われた、「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを、つぶさに見、また追い使う者のゆえに彼らの叫ぶのを聞いた。わたしは彼らの苦しみを知っている。」八 わたしは下って、彼らをエジプトびとの手から救い出し、これをかの地から導き上って、良い広い地、乳と蜜の流れる地、すなわちカナンびと、ヘテびと、アモリびと、ベリジびと、ヒビびと、エブスびとのおる所に至らせようとしている。九 いまイスラエルの人々の叫びがわたしに届いた。わたしはまたエジプトびとが彼らをしろしめさる、そのしろしめさるを見た。一〇 さあ、わたしは、あなたをバロにつかわして、わたしの民、イスラエルの人々をエジプトから導き出させよう。」二 モーセは神に言った、「わたしは、いったい何者でしょう。わたしはバロのところへ行つて、イスラエルの人々をエジプトから導き出すのでしょうか。」三 神は言われた、「わたしは必ずあなたと共にいる。これが、わたしのあなたをつかわしたしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたがたはこの山で神に仕えるであろう。」四 モーセは神に言った、「わたしはイスラエルの人々のところへ行つて、彼らに『あなたがたの先祖の神が、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と言うとき、彼らが『その名はなんというのですか』とわたし

に聞くならば、なんと答えましょうか。」「神はモーセに言われた、「わたしは、有って有る者」。また言われた、「イスラエルの人々にこう言いなさい、『わたしは有る』』というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました」と。」「神はまたモーセに言われた、「イスラエルの人々にこう言いなさい、『あなたがたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主が、わたしをあなたがたのところへつかわされました』』と。これは永遠にわたしの名、これは世々のわたしの呼び名である。」「あなたは行って、イスラエルの長老たちを集めて言いなさい、『あなたがたの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である主は、わたしに現れて言われました、「わたしはあなたがたを顧み、あなたがたがエジプトでされている事を確かに見た。」「それでわたしはあなたがたを、エジプトの悩みから導き出して、カナンびと、ヘテびと、アモリびと、ペリジびと、ヒビびと、エブスびとの地、乳と蜜の流れる地へ携え上ろうと決心した』』と。」「彼らはあなたの声に聞き従うであろう。あなたにはイスラエルの長老たちと一緒にエジプトの王のところへ行って言いなさい、『ヘブルびとの神、主がわたしたちに現れました。それで、わたしたちを、三日の道のりほど荒野に行かせて、わたしたちの神、主に犠牲をささげることがを許してください』と。」「しかし、エジプトの王は強い手をもって迫らなければ、あなたがたを

行かせないのをわたしは知っている。」「それで、わたしは手を伸べて、エジプトのうちに行動おうとする、さまざまの不思議をもつてエジプトを打とう。その後にはあなたがたを去らせるであろう。」「わたしはこの民にエジプトびとの好意を得させる。あなたがたは去るときに、むなし手で去ってはならない。」「三女はみな、その隣の女と、家に宿っている女に、銀の飾り、金の飾り、また衣服を求めなさい。そしてこれらを、あなたがたのむすこ、娘に着けさせなさい。このようにエジプトびとのものを奪い取りなさい」。

第四章 「モーセは言った、「しかし、彼らはわたしを信ぜず、またわたしの声に聞き従わないで言うでしょう、『主はあなたに現れなかった』』と。」「主は彼に言

われた、「あなたの手にあるそれは何か」。彼は言った、「つえです」。」「また言われた、「それを地に投げなさい」。彼がそれを地に投げると、へびになったので、モーセはその前から身を避けた。」「主はモーセに言われた、「あなたの手を伸ばして、その尾を取りなさい。——そこで手を伸ばしてそれを取ると、手のなかでつえとなった。——」

これは、彼らの先祖たちの神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主が、あなたに現れたのを、彼らに信じさせるためである。」「主はまた彼に言われた、「あなたの手をふところに入れなさい」。彼が手をふところに入れ、それを出すと、手は、らい病にかかって、雪

のように白くなっていた。主は言われた、「手をふところにもどしなさい」。彼は手をふところにもどし、それをふところから出して見ると、回復して、もとの肉のようになつていた。主は言われた、「彼らがもしあなたを信ぜず、また初めのしるしを認めないならば、後のしるしは信じるであろう。彼らがもしこの二つのしるしを信ぜず、あなたの声に聞き従わないならば、あなたはナイル川の水を取って、かわいた地に注ぎなさい。あなたがナイル川から取った水は、かわいた地で血となるであろう」。

「モーセは主に言った、「ああ主よ、わたしは以前にも、またあなたが、しもべに語られてから後も、言葉の人ではありません。わたしは口も重く、舌も重いのです」。

主は彼に言われた、「だれが人に口を授けたのか。おし、耳しい、目あき、目しいに、だれがするのか。主なるわたしではないか。三それゆえ行きなさい。わたしはあなたの口と共にあって、あなたの言うべきことを教えるであろう」。

「モーセは言った、「ああ、主よ、どうか、ほかの適当な人をおつかわしてください」。

「四そこで、主はモーセにむかつて怒りを発して言われた、「あなたの兄弟レビとアロンがいるではないか。わたしは彼が言葉にすぐれているのを知っている。見よ、彼はあなたに会おうとして出てきている。彼はあなたを見て心に喜ぶであらう」。

「五あなたは彼に語って言葉をその口に授けなさい。

い。わたしはあなたの口と共にあり、彼の口と共にあって、あなたがたのなすべきことを教え、六彼はあなたに代つて民に語るであらう。彼はあなたの口となり、あなたは彼のために、神に代るであらう。七あなたはそのつえを手に執り、それをもって、しるしを行いなさい」。

「八モーセは妻の父エテロのところへ帰つて彼に言った、「どうかわたしを、エジプトにいる身うちの者のところに帰らせ、彼らがまだ生きながらえているか、どうかを見させてください」。エテロはモーセに言った、「安心して行きなさい」。

「九主はミデヤンでモーセに言われた、「エジプトに帰つて行きなさい。あなたの命を求めた人はみな死んだ」。

「十そこでモーセは妻と子供たちをとり、ろばに乗せて、エジプトの地に帰った。モーセは手に神のつえを執つた。

「十一主はモーセに言われた、「あなたがエジプトに帰ったとき、わたしがあなたの手に授けた不思議を、みなバロの前で行いなさい。しかし、わたしが彼の心をかたくなにするので、彼は民を去らせないであらう」。

「十二あなたはバロに言いなさい、『主はこう仰せられる。イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。十三わたしはあなたに言う。わたしの子を去らせて、わたしに仕えさせなさい。もし彼を去らせるのを拒むならば、わたしはあなたの子、あなたの長子を殺すであらう』と」。

「十四さてモーセが途中で宿っている時、主は彼に会つて

彼を殺そうとされた。二五その時チツボラは火打ち石の小刀を取って、その男の子の前の皮を切り、それをモーセの足につけて言った、「あなたはまことに、わたしにとつて血の花婿です」。二六そこで、主はモーセをゆるされた。この時「血の花婿です」とチツボラが言ったのは割礼のゆえである。

二七主はアロンに言われた、「荒野に行つてモーセに会いなさい」。彼は行つて神の山でモーセに会い、これに口づけした。二八モーセは自分をつかわされた主のすべての言葉と、命じられたすべてのしるしをアロンに告げた。二九そこでモーセとアロンは行つてイスラエルの人々の長老たちをみな集めた。三〇そしてアロンは主がモーセに語られた言葉を、ことごとく告げた。また彼は民の前でしるしを行つたので、三民は信じた。彼らは主がイスラエルの人々を顧み、その苦しみをみられたのを聞き、伏して礼拝した。

第五章

一その後、モーセとアロンは行つてバロに言った、「イスラエルの神、主はこう言われる、『わたしの民を去らせ、荒野で、わたしのために祭をさせなさい』と」。二バロは言った、「主とはいったい何者か。わたしがその声に聞き従つてイスラエルを去らせなければならぬのか。わたしは主を知らない。またイスラエルを去らせはしない」。三彼らは言った、「ヘブルびとの神がわたしたちに現れました。どうか、わたしたちを三日の道

のりほど荒野に行かせ、わたしたちの神、主に犠牲をさげさせてください。そうしなければ主は疫病か、つるぎをもつて、わたしたちを悩まされるからです」。四エジプトの王は彼らに言った、「モーセとアロンよ、あなたがたは、なぜ民に働きをやめさせようとするのか。自分の労役につくがよい」。五バロはまた言った、「見よ、今や土民の数は多い。しかも、あなたがたは彼らに労役を休ませようとするのか」。六その日、バロは民を追い使う者と、民のかしらたちに命じて言った、七「あなたがたは、れんがを作るためのわらを、もはや、今までのように、この民に与えてはならない。彼らに自分で行つて、わらを集めさせなさい。八また前に作つていた、れんがの数どおりに彼らに作らせ、それを減らしてはならない。彼らはなまけ者だ。それだから、彼らは叫んで、『行つてわたしたちの神に犠牲をさげさせよ』と言うのだ。九この人の労役を重くして、働かせ、偽りの言葉に心を寄せさせぬようにしなさい」。

一〇そこで民を追い使う者たちと、民のかしらたちは出て行つて、民に言った、「バロはこう仰せられる、『あなたがたに、わらはを与えない。二自分で行つて、見つかる所から、わらを取つて来るがよい。しかし働きは少しも減らしてはならない』と」。三そこで民はエジプトの全地に散つて、わらのかわりに、刈り株を集めた。四追いつく者たちは、彼らをせき立てて言った、「わらがあつた時

と同じように、あなたがたの働きの、日ごとの分を仕上げなければならぬ。」「四 パロの使い遣う者たちがイスラエルの人々の上に立てたかしらたちは、打たれて、「なぜ、あなたがたは、れんが作りの仕事を、きょうも、前のように仕上げないのか」と言われた。

「五 そこで、イスラエルの人々のかしらたちはパロのところにいき、叫んで言った、「あなたはなぜ、しもべどもにこんなことをなさるのですか。」「六 しもべどもは、わらを与えられず、しかも彼らはわたしたちに、『れんがは作れ』と言うのです。その上、しもべどもは打たれています。罪はあなたの民にあるのです。」「七 パロは言った、「あなたがたは、なまけ者だ、なまけ者だ。それだから、

『行って、主に犠牲をささげさせよ』と言うのだ。」「八 さあ、行って働きなさい。わらは与えないが、なおあなたがたは定めた数のれんがを納めなければならぬ。」「九 イスラエルの人々のかしらたちは、『れんがの日ごとの分を減らしてはならない』と言われたので、悪い事態になったことを知った。」「一〇 彼らがパロを離れて出てきた時、彼らに会おうとして立っていたモーセとアロンに会ったので、三 彼らに言った、「主があなたがたをごらんになって、さばかれますように。あなたがたは、わたしたちをパロとその家来たちにきらわせ、つるぎを彼らの手に渡して、殺させようとしておられるのです」。

三 モーセは主のもとに帰って言った、「主よ、あなたは、

なぜこの民をひどい目にあわされるのですか。なんのためにわたしをつかわされたのですか。」「三 わたしがパロのもとに行つて、あなたの名によって語つてからこのかた、彼はこの民をひどい目にあわせるばかりです。また、あなたは、すこしもあなたの民を救おうとなさいません」。

第六 章 「主はモーセに言われた、「今、あなたは、わたしがパロに何をしようとしているかを見るであらう。すなわちパロは強い手にしいられて、彼らを去らせるであらう。否、彼は強い手にしいられて、彼らを国から追い出すであらう」。

「三 神はモーセに言われた、「わたしは主である。」「四 わたしはアブラハム、イサク、ヤコブには全能の神として現れたが、主という名では、自分を彼らに知らせなかった。」「五 わたしはまたカナン地の、すなわち彼らが寄留したその寄留の地を、彼らに与えるという契約を彼らと立てた。」「六 わたしはまた、エジプトびとが奴隷としてゐるイスラエルの人々のうめきを聞いて、わたしの契約を思い出した。」「七 それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい、『わたしは主である。わたしはあなたがたをエジプトびとの労役の下から導き出し、奴隷の務から救い、また伸べた腕と大いなるさばきをもって、あなたがたをあがなうであらう。」「八 わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。」「九 わたしがエジプトびとの労役の下からあなたがたを導き出すあなたがたの神、主であ

ることを、あなたがたは知るであらう。八わたしはアブラハム、イサク、ヤコブに与えたと手を挙げて誓ったその地にあなたがたをはいらせ、それを所有として、与えるであらう。わたしは主である」と。九モーセはこのようにイスラエルの人々に語ったが、彼らは心の痛みと、きびしい奴隷の務のゆえに、モーセに聞き従わなかった。

一〇さて主はモーセに言われた、「二エジプトの王パロのところに行つて、彼がイスラエルの人々をその国から去らせるように話しなさい」。三モーセは主にむかつて言った、「イスラエルの人々でさえ、わたしの言うことを聞かなかったのに、どうして、くちびるに割礼のないわたしの言うことを、パロが聞き入れましょうか」。四しかし、主はモーセとアロンに語つて、イスラエルの人々と、エジプトの王パロのもとに行かせ、イスラエルの人々をエジプトの地から導き出せと命じられた。

五彼らの先祖の家の首長たちは次のとおりである。すなわちイスラエルの長子ルベンの子らはハノク、バル、ヘツロン、カルミで、これらはルベンの一族である。六シメオンの子らはエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ゾハル、およびカナンの女から生れたシャウルで、これらはシメオンの一族である。七レビの子らの名は、その世代に従えば、ゲルシオン、コハテ、メラリで、レビの一生は百三十七年であつた。八ゲルシオンの子らの一族はリブニとシメイである。九コハテの子らはアムラム、イ

ヅハル、ヘブロン、ウジエルで、コハテの一生は百三十七年であつた。一〇メラリの子らはマヘリとムシである。これらはその世代によるレビの一族である。一一アムラムは父の妹ヨケベデを妻としたが、彼女はアロンとモーセを彼に産んだ。アムラムの一生は百三十七年であつた。一二イヅハルの子らはコラ、ネベグ、ジクリである。一三ウジエルの子らはミサエル、エルザバン、シテリである。一四アロンはナシヨンの姉妹、アミナダブの娘エリセバを妻とした。エリセバは彼にナダブ、アビウ、エレアザル、イタマルを産んだ。一五コラの子らはアツシル、エルカナ、アビアサフで、これらはコラびとの一族である。一六アロンの子エレアザルはプテエルの娘のひとり妻とした。彼女がビネハスを彼に産んだ。これらは、その一族によるレビびとの先祖の家の首長たちである。

一七主が、「イスラエルの人々をその軍団に従つて、エジプトの地から導き出さなさい」と言われたのは、このアロンとモーセである。一八彼らはイスラエルの人々をエジプトから導き出すことについて、エジプトの王パロに語つたもので、すなわちこのモーセとアロンである。

一九主がエジプトの地でモーセに語られた日に、二〇主はモーセに言われた、「わたしは主である。わたしがあなたに語ることは、みなエジプトの王パロに語りなさい」。二一しかしモーセは主にむかつて言った、「ごらんのとおり、わたしは、くちびるに割礼のない者です。パロがどうし

てわたしの言うことを聞きいれましようか」。

第七 章 主はモーセに言われた、「見よ、わた

しはあなたをバロに対して神のごときものとする。あなたの兄弟アロンはあなたの預言者となるであらう。二あなたはわたしが命じること、ことごとく彼に告げなければならぬ。そしてあなたの兄弟アロンはバロに告げて、イスラエルの人々をその国から去らせるようにさせなければならぬ。三しかし、わたしはバロの心をかたくなにするので、わたしのしるしと不思議をエジプトの国に多く行っても、四バロはあなたがたの言うことを聞かないであらう。それでわたしは手をエジプトの上に加え、大いなるさばきをくだして、わたしの軍団、わたしの民イスラエルの人々を、エジプトの国から導き出すであらう。五わたしは手をエジプトの上にさし伸べて、イスラエルの人々を彼らのうちから導き出す時、エジプトびとはわたしが主であることを知るようになるであらう。六モーセとアロンはそのように行つた。すなわち主が彼らに命じられたように行つた。七彼らがバロと語つた時、モーセは八十歳、アロンは八十三歳であつた。

八主はモーセとアロンに言われた、九「バロがあなたがたに、『不思議をおこなつて証拠を示せ』と言う時、あなたはアロンに言いなさい、『あなたのつえを取つて、バロの前に投げなさい』と。するとそれはへびになるであらう。一〇それで、モーセとアロンはバロのところに行き、

主の命じられたとおりにおこなつた。すなわちアロンはそのつえを、バロとその家来たちの前に投げると、それはへびになつた。二そこでバロもまた知者と魔法使を召し寄せた。これらのエジプトの魔術師らもまた、その秘術をもつて同じように行つた。三すなわち彼らは、おのおのそのつえを投げたが、それらはへびになつた。しかし、アロンのつえは彼らのつえを、のみつくした。四けれども、バロの心はかたくなになつて、主の言われたように、彼らの言うことを聞かなかつた。

五主はモーセに言われた、「バロの心はかたくなで、彼は民を去らせることを拒んでゐる。六あなたは、あすの朝、バロのところに行きなさい。見よ、彼は水のところにゐる。七あなたは、へびに變つたあつたのつえを手にとり、ナイル川の岸に立つて彼に会い、八そして彼に言いなさい、『へブルびとの神、主がわたしをあなたにつかわして言われます、九「わたしの民を去らせ、荒野で、わたしに仕えるようにさせよ」』と。しかし今もお、あなたが聞きいれようとされないで、一〇主はこう仰せられます、一「これによつてわたしが主であることを、あなたは知るでしよう。見よ、わたしが手にあるつえでナイル川の水を打つと、それは血に變るであらう。二八そして川の魚は死に、川は臭くなり、エジプトびとは川の水を飲むことをいとふであらう』と。二九主はまたモーセに言われた、三〇「あなたはアロンに言いなさい、『あなたのつえを執つて、

手をエジプトの水の上、川の上、流れの上、池の上、またそのすべての水たまりの上にさし伸べて、それを血にならせなさい。エジプト全国にわたって、木の器、石の器にも、血があるようになるでしょう」と。

二〇モーセとアロンは主の命じられたようにおこなった。すなわち、彼はバロとその家来たちの目の前で、つえをあげてナイル川の水を打つと、川の水は、ことごとく血に変わった。二一それで川の魚は死に、川は臭くなり、エジプトびとは川の水を飲むことができなくなった。そしてエジプト全国にわたって血があつた。二三エジプトの魔術師らも秘術をもって同じようにおこなった。しかし、主の言われたように、バロの心はかたくなになり、彼らの言うことを聞かなかつた。二四バロは身をめぐらして家に入り、またこのことをも心に留めなかつた。二五すべてのエジプトびとはナイル川の水が飲めなかつたので、飲む水を得ようと、川のまわりを掘つた。

二五 主がナイル川を打たれてのち七日を経た。

第八章 一主はモーセに言われた、「あなたはパロのところに行つて言いなさい、『主はこう仰せられます、』「わたしの民を去らせて、わたしに仕えさせなさい。二しかし、去らせることを拒むならば、見よ、わたしは、かえるをもつて、あなたの領土を、ことごとく撃つであらう。三ナイル川にかえるが群がり、のぼつて、あなたの家、あなたの寝室にはいり、寝台にのぼり、あなたの家

来と民の家にはいり、またあなたのかまどや、こね鉢にはいり、四あなたと、あなたの民と、すべての家来のからだに、はい上がるであらう」と。五主はモーセに言われた、「あなたはアロンに言いなさい、『つえを持って、手を川の上、流れの上、池の上にさし伸べ、かえるをエジプトの地にのぼらせなさい』と。六アロンが手をエジプトの水の上にさし伸べたので、かえるはのぼつてエジプトの地をおおつた。七魔術師らも秘術をもって同じように行い、かえるをエジプトの地にのぼらせた。

八バロはモーセとアロンを召して言つた、「かえるをわたしと、わたしの民から取り去るように主に願つてください。そのときわたしはこの民を去らせて、主に犠牲をささげさせるでしょう。九モーセはバロに言つた、「あなたと、あなたの家来と、あなたの民のために、わたしがいつ願つて、このかえるを、あなたとあなたの家から断つて、ナイル川だけにとどまらせるべきか、きめてください。一〇バロは言つた、『明日』。モーセは言つた、『仰せのとおりになつて、わたしたちの神、主に並ぶものがないことを、あなたが知られますように。二そして、かえるはあなたと、あなたの家と、あなたの家来と、あなたの民を離れてナイル川にだけにとどまるでしょう。三こうしてモーセとアロンはバロを離れて出た。モーセは主がバロにつかわされたかえるの事について、主に呼び求めたので、四主はモーセのことばのようにされ、か

えるは家から、庭から、また畑から死に絶えた。二四これをひと山ひと山に積んだので、地は臭くなった。二五ところがパロは息つくひまのできたのを見て、主が言われたように、その心をかたくなにして彼らの言うことを聞かなかった。

二六主はモーセに言われた、「あなたはアロンに言いなさい、『あなたのつえをさし伸べて地のちりを打ち、それをエジプトの全国にわたって、ぶよとならせなさい』と」。二七彼らはそのように行った。すなわちアロンはそのつえをとって手をさし伸べ、地のちりを打ったので、ぶよは人と家畜についた。すなわち、地のちりはみなエジプトの全国にわたって、ぶよとなった。二八魔術師らも秘術をもつて同じように行い、ぶよを出そうとしたが、彼らにはできなかった。ぶよが人と家畜についたので、二九魔術師らはパロに言った、「これは神の指です」。しかし主の言われたように、パロの心はかたくなになって、彼らのいうことを聞かなかった。

三〇主はモーセに言われた、「あなたは朝早く起きてパロの前に立ちなさい。ちようど彼は水のところに出ているから彼に言いなさい、『主はこう仰せられる、**「わたしの民を去らせて、わたしに仕えさせなさい。三**あなたがわたしの民を去らせないならば、わたしは、あなたとあなたの家来と、あなたの民とあなたの家とに、あぶの群れをつかわすであらう。エジプトびとの家々は、あぶの

群れで満ち、彼らの踏む地もまた、そうなるであらう。三その日わたしは、わたしの民の住むゴセンの地を区別して、そこにあぶの群れを入れないであらう。国の中でわたしが主であることをあなたが知るためである。三わたしはわたしの民とあなたの民の間に区別をおく。このしるしは、あす起るであらう』と」。二四主はそうにされたので、おびただしいあぶが、パロの家と、その家来の家と、エジプトの全国にはいつてきて、地はあぶの群れのために害をうけた。

二五そこで、パロはモーセとアロンを召して言った、「あなたがたは行ってこの国の内で、あなたがたの神に犠牲をささげなさい」。二六モーセは言った、「そうすることはできません。わたしたちはエジプトびとの忌むものを犠牲として、わたしたちの神、主にささげるからです。もし、エジプトびとの目の前で、彼らの忌むものを犠牲にささげるならば、彼らはわたしたちを石で打たないでしようか。二七わたしたちは三日の道のりほど、荒野にはいつて、わたしたちの神、主に犠牲をささげ、主がわたしたちに命じられるようにしなければなりません」。二八パロは言った、「わたしはあなたがたを去らせ、荒野で、あなたがたの神、主に犠牲をささげさせよう。ただあまり遠くへ行つてはならない。わたしのために祈願しなさい」。二九モーセは言った、「わたしはあなたのもとから出て行って主に祈願しましょう。あすあぶの群れがパロと、

その家来と、その民から離れるでしよう。ただパロはまた欺いて、民が主に犠牲をささげに行くのをとめないようにしてください」。三〇こうしてモーセはパロのもとを出て、主に祈願したので、三主はモーセの言葉のようにされた。すなわち、あぶの群れをパロと、その家来と、その民から取り去られたので、一つも残らなかつた。三しかしパロはこんどもまた、その心をかたくなにして民を去らせなかつた。

第九章 一主はモーセに言われた、「パロのもとに行つて、彼に言いなさい、『ヘブルびとの神、主はこう仰せられる、『わたしの民を去らせて、わたしに仕えさせなさい。二あなたがもし彼らを去らせることを拒んで、なお彼らを留めおくならば、三主の手は最も激しい疫病をもつて、野にいるあなたの家畜、すなわち馬、ろば、らくだ、牛、羊の上に臨むであらう。四しかし、主はイスラエルの家畜と、エジプトの家畜を区別され、すべてイスラエルの人々に属するものには一頭も死ぬものがないであらう』と』。五主は、また、時を定めて仰せられた、『あす、主はこのことを国に行うであらう』。六あくる日、主はこのことを行われたので、エジプトびとの家畜はみな死んだ。しかし、イスラエルの人々の家畜は一頭も死ななかつた。セパロは人をつかわして見させたが、イスラエルの家畜は一頭も死んでいなかった。それでもパロの心はかたくなで、民を去らせなかつた。

八主はモーセとアロンに言われた、「あなたがたは、かまどのすすを両手いっぱい取り、それをモーセはパロの目の前で天にむかつて、まき散らしなさい。九それはエジプトの全国にわたつて、細かいちりとなり、エジプト全国で人と獣に付いて、うみの出るはれものとなるであらう。一〇そこで彼らは、かまどのすすを取つてパロの前に立ち、モーセは天にむかつてこれをまき散らしたので、人と獣に付いて、うみの出るはれものとなつた。二魔術師らは、はれもののためにモーセの前に立つことができなかった。はれものが魔術師らと、すべてのエジプトびとに生じたからである。三しかし、主はパロの心をかたくなにされたので、彼は主がモーセに語られたように、彼らの言うことを聞かなかつた。

三主はまたモーセに言われた、「朝早く起き、パロの前に立つて、彼に言いなさい、『ヘブルびとの神、主はこう仰せられる、『わたしの民を去らせて、わたしに仕えさせなさい。四わたしは、こんどは、もろもろの災を、あなたと、あなたの家来と、あなたの民にくだし、わたしに並ぶものが全地にないことを知らせるであらう。五わたしは、手さし伸べ、疫病をもつて、あなたと、あなたの民を打つていたならば、あなたは地から断ち滅ぼされていたであらう。六しかし、わたしがあなたをながらえさせたのは、あなたにわたしの力を見させるため、そして、わたしの名が全地に宣べ伝えられるためにほかなら

ない。「七それに、あなたはなお、わたしの民にむかつて、おのれを高くし、彼らを去らせようとしなさい。」「八ゆえに、あすの今ごろ、わたしは恐ろしく大きな雹を降らせるであらう。それはエジプトの国が始まった日から今まで、かつてなかったほどのものである。」「九それゆえ、いま、人をやって、あなたの家畜と、あなたが野にもっているすべてのものを、のがれさせなさい。人も獣も、すべて野にあって家に帰らないものは降る雹に打たれて死ぬであらう」と。」「一〇パロの家来のうち、主の言葉をおそれる者は、そのしもべと家畜を家にのがれさせたが、三主の言葉を意にとめないものは、そのしもべと家畜を野に残しておいた。

三主はモーセに言われた、「あなたの手を天にむかつてさし伸べ、エジプトの全国にわたって、エジプトの地にいる人と獣と畑のすべての青物の上に雹を降らせなさい。」「二二モーセが天にむかつてつえをさし伸べると、主は雷と雹をおくられ、火は地にむかつて、はせ下った。こうして主は、雹をエジプトの地に降らされた。二四そして雹が降り、雹の間に火がひらめき渡った。雹は恐ろしく大きく、エジプト全国には、国をなしてこのかた、かつてないものであった。二五雹はエジプト全国にわたって、すべて畑にいる人と獣を打った。雹はまた畑のすべての青物を打ち、野のもろもろの木を折り砕いた。二六だイスラエルの人々のいたゴセンの地には、雹が降らな

かった。

二七そこで、パロは人をつかわし、モーセとアロンを召して言った、「わたしはこんどは罪を犯した。主は正しく、わたしと、わたしの民は悪い。二八主に祈願してください。この雷と雹はもうじゅうぶんです。わたしはあなたがたを去らせます。もはやとどまらなくてもよろしい。」「二九モーセは彼に言った、「わたしは町を出ると、すぐ、主にむかつてわたしの手を伸べひろげます。すると雷はやみ、雹はもはや降らなくなり、あなたは、地が主のものであることを知られましよう。三〇しかし、あなたとあなたの家来たちは、なお、神なる主を恐れなさいことを、わたしは知っています。」「三一亜麻と大麦は打ち倒された。大麦は穂を出し、亜麻は花が咲いていたからである。三二小麦とスペルタ麦はおくであるため打ち倒されなかった。」「三三モーセはパロのもとを去り、町を出て、主にむかつて手を伸べひろげたので、雷と雹はやみ、雨は地に降らなくなった。三四ところがパロは雨と雹と雷がやんだのを見て、またも罪を犯し、心をかたくなにした。彼も家来も、そうであった。三五すなわちパロは心をかたくなにし、主がモーセによつて語られたように、イスラエルの人々を去らせなかった。

第一〇章 「そこで、主はモーセに言われた、「パロのもとに行きなさい。わたしは彼の心とその家来たちの心をかたくなにした。これは、わたしがこれらのしる

しを、彼らの中に行くためである。二また、わたしがエジプトびとをあしらったこと、また彼らの中にわたしが行ったしるしを、あなたがたが、子や孫の耳に語り伝えるためである。そしてあなたがたは、わたしが主であることを知るであろう」。

三モーセとアロンはパロのもとに行つて彼に言った、「へブルびとの神、主はこう仰せられる、『いつまで、あなたは、わたしに屈伏することを拒むのですか。民を去らせて、わたしに仕えさせなさい。四もし、わたしの民を去らせることを拒むならば、見よ、あす、わたしはいなごを、あなたの領土にはいらせるであろう。五それは地のおもてをおおい、人が地を見ることもできないほどになるであろう。そして電を免れて、残されているものを食いつくし、野にはえているあなたがたの木をみな食いつくすであろう。六またそれはあなたの家とあなたのすべての家来の家、および、すべてのエジプトびとの家に満ちるであろう。このようなことは、あなたの父たちも、また、祖父たちも、彼らが地上にあった日から今日に至るまで、かつて見たことの無いものである』と。そして彼は身をめぐらして、パロのもとを出て行った。

七パロの家来たちは王に言った、「いつまで、この人はわれわれのわなとなるのでしょうか。この人々を去らせ、彼らの神なる主に仕えさせては、どうでしょう。エジプトが滅びてしまうことに、まだ気づかれないのですか」。

八そこで、モーセとアロンは、また、パロのもとに召し出された。パロは彼らに言った、「行つて、あなたがたの神、主に仕えなさい。しかし、行くものはだれだれか」。九モーセは言った、「わたしたちは幼い者も、老いた者も行きます。むすこも娘も携え、羊も牛も連れて行きます。わたしたちは主の祭を執り行わなければならぬのですから」。一〇パロは彼らに言った、「万一、わたしが、あなたがたに子供を連れてまで去らせるようなことがあれば、主があなたがたと共にいますがい。あなたがたは悪いたくらみをしている。二それはいけない。あなたがたは男だけ行つて主に仕えるがよい。それが、あなたがたの要求であつた」。彼らは、ついにパロの前から追ひ出された。

三主はモーセに言われた、「あなたの手をエジプトの地の上にさし伸べて、エジプトの地にいなごをのぼらせ、地のすべての青物、すなわち、電が打ち残したものを、ことごとく食べさせなさい」。四そこでモーセはエジプトの地の上に、つえをさし伸べたので、主は終日、終夜、東風を地に吹かせられた。朝となって、東風は、いなごを運んできた。五いなごはエジプト全国にのぞみ、エジプトの全領土にとどまり、その数がはなはだ多く、このようないなごは前にもなく、また後にもないであろう。六いなごは地の全面をおおつたので、地は暗くなった。七そして地のすべての青物と、電の打ち残した木の実を、こ

とごとく食べたので、エジプト全国にわたって、木にも
 畑の青物にも、緑の物とは何も残らなかつた。二六そこ
 で、バロは、急いでモーセとアロンを召して言った、「わ
 たしは、あなたがたの神、主に対し、また、あなたがた
 に対して罪を犯しました。エモそれで、どうか、もう一度
 だけ、わたしの罪をゆるしてください。そしてあなたが
 たの神、主に祈願して、ただ、この死をわたしから離れ
 させてください」。二八そこで彼はバロのところから出て、
 主に祈願したので、二九主は、はなはだ強い西風に交らせ、
 いなごを吹き上げて、これを紅海に追いやられたので、
 エジプト全土には一つのいなごも残らなかつた。三〇しか
 し、主がバロの心をかたくなにされたので、彼はイスラ
 エルの人々を去らせなかつた。
 三一主はまたモーセに言われた、「天にむかつてあなたの
 手をさし伸べ、エジプトの国に、くらやみをこさせなさ
 い。そのくらやみは、さわれるほどである」。三二モーセ
 が天にむかつて手をさし伸べたので、濃いくらやみは、エ
 ジプト全国に臨み三日に及んだ。三三日の間、人々は互
 に見ることもできず、まただれもその所から立つ者もな
 かつた。しかし、イスラエルの人々には、みな、その住む
 所に光があつた。二四そこでバロはモーセを召して言った、
 「あなたがたは行って主に仕えなさい。あなたがたの子
 供も連れて行ってもよろしい。ただ、あなたがたの羊と
 牛は残して置きなさい」。二五しかし、モーセは言った、「あ

なたは、また、わたしたちの神、主にささげる犠牲と燔祭
 の物をも、わたしたちにくださなければなりません。
 二六わたしたちは家畜も連れて行きます。ひずめ一つも残
 しません。わたしたちは、そのうちから取って、わたした
 ちの神、主に仕えねばなりません。またわたしたちは、
 その場所に行くまでは、何をもつて、主に仕えるべきか
 を知らないからです」。二七けれども、主がバロの心をか
 たくなにされたので、バロは彼らを去らせようとしな
 かつた。二八それでバロはモーセに言った、「わたしの所か
 ら去りなさい。心して、わたしの顔は二度と見てはなら
 ない。わたしの顔を見る日には、あなたの命はないであ
 ろう」。二九モーセは言った、「よくぞ仰せられました。わ
 たしは、二度と、あなたの顔を見ないでしょう」。

第一章 一主はモーセに言われた、「わたしは、な
 お一つの災を、バロとエジプトの上にくだし、その後、
 彼はあなたがたをここから去らせるであろう。彼が去ら
 せるとき、彼はあなたがたを、ことごとくここから追い
 出すであろう。二あなたは民の耳に語つて、男は隣の男
 から、女は隣の女から、それぞれ銀の飾り、金の飾りを
 請い求めさせなさい」。三主は民にエジプトびとの好意を
 得させられた。またモーセその人は、エジプトの国で、
 バロの家来たちの目と民の目に、はなはだ大いなるも
 のと見えた。

四モーセは言った、「主はこう仰せられる、『真夜中ごろ、

わたしはエジプトの中へ出て行くであろう。五 エジプトの国のうちのういごは、位に座するパロのういごをはじめ、ひきうすの後にいる、はしためのういごに至るまで、みな死に、また家畜のういごもみな死ぬであろう。六 そしてエジプト全国に大いなる叫びが起るであろう。このようなことはかつてなく、また、ふたたびないであろう』と。七 しかし、すべて、イスラエルの人々にむかつては、人にむかつては、獣にむかつては、犬さえその舌を鳴らさないであろう。これによって主がエジプトびととイスラエルびととの間の区別をされるのを、あなたがたは知るであろう。八 これらのあなたの家来たちは、みな、わたしのもとに下つてきて、ひれ伏して言うであろう、『あなたもあなたに従う民もみな出て行ってください』と。その後、わたしは出て行きます。彼は激しく怒ってパロのもとから出て行った。九 主はモーセに言われた、『パロはあなたがたの言うことを聞かないであろう。それゆえ、わたしはエジプトの国に不思議を増し加えるであろう』。

第一二章 一 主はエジプトの国で、モーセとアロンに告げて言われた、『この月をあなたがたの初めの月とし、これを年の正月としなさい。二 あなたがたはイスラエルの全会衆に言いなさい、『この月の十日におの、

その父の家ごとに小羊を取らなければならない。すなわち、一家族に小羊一頭を取らなければならない。四 もし家族が少なくて一頭の小羊を食べきれないときは、家のすぐ隣の人と共に、人数に従って一頭を取り、おのおの食するところに応じて、小羊を見計らわなければならない。五 小羊は傷のないもので、一歳の雄でなければならない。羊またはやぎのうちから、これを取らなければならない。六 そしてこの月の十四日まで、これを守って置き、イスラエルの会衆はみな、夕暮にこれをほふり、七 その血を取り、小羊を食する家の入口の二つの柱と、かみにそれを塗らなければならない。八 そしてその夜、その肉を火に焼いて食べ、種入れぬパンと苦菜を添えて食べなければならない。九 生でも、水で煮ても、食べてはならない。火に焼いて、その頭を足と内臓と共に食べなければならない。一〇 朝までそれを残しておいてはならない。朝まで残るものは火で焼きつくさなければならない。二 あなたがたは、こうして、それを食べなければならない。すなわち腰を引きからげ、足にくつをはき、手につえを取って、急いでそれを食べなければならない。これは主の過越である。三 その夜わたしはエジプトの国を巡って、エジプトの国における人と獣との、すべてのういごを打ち、またエジプトのすべての神々に審判を行うであろう。わたしは主である。三 その血はあなたがたのおる家々で、あなたがたのために、しるしとなり、わたしはその血を

見て、あなたがたの所を過ぎ越すであろう。わたしがエジプトの国を撃つ時、災が臨んで、あなたがたを滅ぼすことはないであろう。

二四 この日はあなたがたに記念となり、あなたがたは主の祭としてこれを守り、代々、永久の定めとしてこれを守らなければならない。二五 七日の間あなたがたは種入れぬパンを食べなければならない。その初めの日に家からパン種を取り除かなければならない。第一日から第七日まで、種を入れたパンを食べる人はみなイスラエルから断たれるであろう。二六 かつ、あなたがたは第一日に聖会を、また第七日に聖会を開かなければならない。これらの日には、なんの仕事もしてはならない。ただ、おのおのの食べものだけは作ることができる。二七 あなたがたは、種入れぬパンの祭を守らなければならない。ちょうど、この日、わたしがあなたがたの軍勢をエジプトの国から導き出したからである。それゆえ、あなたがたは代、永久の定めとして、その日を守らなければならない。二八 正月に、その月の十四日の夕方に、あなたがたは種入れぬパンを食べ、その月の二十一日の夕方まで続けなければならない。二九 七日の間、家にパン種を置いてはならない。種を入れたものを食べる者は、寄留の他国人であれ、国に生れた者であれ、すべて、イスラエルの会衆から断たれるであろう。三〇 あなたがたは種を入れたものは何も食べてはならない。すべてあなたがたのすまいにお

いて種入れぬパンを食べなければならない。

三二 そこでモーセはイスラエルの長老をみな呼び寄せて言った「あなたがたは急いで家族ごとに一つの小羊を取り、その過越の獣をほふらなければならない。三三 また一束のヒソブを取って鉢の血に浸し、鉢の血を、かみいと入口の二つの柱につけなければならない。朝まであなたがたは、ひとりも家の戸の外に出てはならない。三三 主が行き巡ってエジプトびとを撃たれるとき、かみいと入口の二つの柱にある血を見て、主はその入口を過ぎ越し、滅ぼす者が、あなたがたの家にはいって、撃つのを許されないであろう。三四 あなたがたはこの事を、あなたと子孫のための定めとして、永久に守らなければならない。三五 あなたがたは、主が約束されたように、あなたがたに賜わる地に至るとき、この儀式を守らなければならない。三六 もし、あなたがたの子供たちが『この儀式はどんな意味ですか』と問うならば、三七 あなたがたは言いなさい、『これは主の過越の犠牲である。エジプトびとを撃たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越して、われわれの家を救われたのである』。民はこのとき、伏して礼拝した。

三八 イスラエルの人々は行ってそのようにした。すなわち主がモーセとアロンに命じられたようにした。三九 夜中になって主はエジプトの国の、すべてのういこ、すなわち位に座するバロのういこから、地下のひとやに

おる捕虜のういごにいたるまで、また、すべての家畜のういごを撃たれた。三〇それでバロとその家来およびエジプトびとはみな夜のうちに起きあがり、エジプトに大いなる叫びがあつた。死人のないういごがなかつたからである。三二そこでバロは夜のうちにモーセとアロンを呼び寄せて言った、「あなたがつたとイスラエルの人々は立つて、わたしの民の中から出て行くがよい。そしてあなたがたの言うように、行って主に仕えなさい。三三あなたがたの言うように羊と牛とを取って行きなさい。また、わたしを祝福しなさい」。

三四こうしてエジプトびとは民をせき立てて、すみやかに国を去らせようとした。彼らは「われわれはみな死ぬ」と思つたからである。三五民はまだパン種を入れない練り粉を、こねばちのまま着物に包んで肩に負つた。三六そしてイスラエルの人々はモーセの言葉のうにして、エジプトびとから銀の飾り、金の飾り、また衣服を請ひ求めた。三六主は民にエジプトびとの情を得させ、彼らの請ひ求めたものを与えさせられた。こうして彼らはエジプトびとのものを奪ひ取つた。

三七さて、イスラエルの人々はラメセスを出立してスコテに向かった。女と子供を除いて徒歩の男子は約六十万に人であつた。三八また多くの入り混じつた群衆および羊、牛など非常に多くの家畜も彼らと共に上つた。三九そして彼らはエジプトから携えて出た練り粉をもつて、種入れ

ぬパンの菓子焼いた。まだパン種を入れていなかったからである。それは彼らがエジプトから追い出されて滞ることができず、また、何の食料をも整えていなかったからである。

四〇イスラエルの人々がエジプトに住んでいた間は、四百三十年であつた。四一四百三十年の終りとなつて、ちょうどその日に、主の全軍はエジプトの国を出た。四二これは彼らをエジプトの国から導き出すために主が寝ずの番をされた夜であつた。ゆえにこの夜、すべてのイスラエルの人々は代々、主のために寝ずの番をしなければならぬ。

四三主はモーセとアロンとに言われた、「過越の祭の定めは次のとおりである。すなわち、異邦人はだれもこれを食べてはならない。四四しかし、おのおのが金で買ったしもべは、これに割礼を行つてのち、これを食べさせることができる。四五仮ずまいの者と、雇人とは、これを食べてはならない。四六ひとつの家でこれを食べなければならぬ。その肉を少しも家の外に持ち出してはならない。また、その骨を折つてはならない。四七イスラエルの全会衆はこれを守らなければならない。四八寄留の外国人があなたのもとにとどまつていて、主に過越の祭を守ろうとするときは、その男子はみな割礼を受けてのち、近づいてこれを守ることができぬ。そうすれば彼は国に生れた者のようになるであらう。しかし、無割礼の者はだれも

これを食べてはならない。四九この律法は国に生れたものにも、あなたがたのうちに寄留している外国人にも同一である。

五〇イスラエルの人々は、みなこのようにし、主がモーセとアロンに命じられたようにした。五二ちようどその日に、主はイスラエルの人々を、その軍団に従ってエジプトの国から導き出された。

第一三章 一主はモーセに言われた、三イスラエルの人々のうちで、すべてのういご、すなわちすべて初めに胎を開いたものを、人であれ、獣であれ、みな、わたしのために聖別しなければならぬ。それはわたしのものである。

三モーセは民に言った、「あなたがたは、エジプトから、奴隷の家から出るこの日を覚えなさい。主が強い手をもつて、あなたがたをここから導き出されるからである。種を入れたパンを食べてはならない。四あなたがたはアピブの月のこの日に出るのである。五主があなたに与えらるゝと、あなたの先祖たちに誓われたカナンびと、ヘテびと、アモリびと、ヒビびと、エブスびとの地、乳と蜜との流れる地に、導き入れられる時、あなたはこの月にこの儀式を守らなければならぬ。六七日のあいだ種入れぬパンを食べ、七日目には主に祭をしなければならぬ。七種入れぬパンを七日のあいだ食べなければならぬ。八種を入れたパンをあなたの所に置いてはならない。ま

た、あなたの地区のどこでも、あなたの所にパン種を置いてはならない。八その日、あなたの子に告げて言いなさい、『これはわたしがエジプトから出るときに、主がわたしになされたことのためである』。九そして、これを手につけて、しるしとし、目の間に置いて記念とし、主の律法をあなたの口に置かなければならない。主が強い手をもつて、あなたをエジプトから導き出されるからである。一〇それゆゑ、あなたはこの定めを年々その期節に守らなければならぬ。

二主があなたとあなたの先祖たちに誓われたように、あなたをカナンびとの地に導いて、それをあなたに賜はる時、三あなたは、すべて初めに胎を開いた者、およびあなたの家畜の産むういごは、ことごとく主にささげなければならぬ。すなわち、それらの男性のものは主に帰せしめなければならぬ。四また、すべて、ろばの初めて胎を開いたものは、小羊をもつて、あがなわなければならぬ。もし、あがなわなければ、その首を折らなければならぬ。あなたの子らのうち、すべて、男のういごは、あがなわなければならぬ。五後になつて、あなたの子が『これはどんな意味ですか』と問うならば、これに言わなければならぬ、『主が強い手をもつて、われわれをエジプトから、奴隷の家から導き出された。六そのときバロが、かたくなで、われわれを去らせなかつたため、主はエジプトの国のういごを、人のういごも家

畜のういごも、ことごとく殺された。それゆえ、初めて胎を開く男性のものはみな、主に犠牲としてささげるが、わたしの子供のうちのういごは、すべてあがなうのである。』^{一六}そして、これを手につけて、しるしとし、目の間に置いて覚えとしなければならぬ。主が強い手をもつて、われわれをエジプトから導き出されたからである。』

^{一七}さて、パロが民を去らせた時、ペリシテびとの国の道は近かったが、神は彼らをそれに導かれなかった。民が戦いを見れば悔いてエジプトに帰るであらうと、神は思われたからである。^{一八}神は紅海に沿う荒野の道に、民を回らされた。イスラエルの人々は武装してエジプトの国を出て、上った。^{一九}そのときモーセはヨセフの遺骸を携えていた。ヨセフが、「神は必ずあなたがたを顧みられるであらう。そのとき、あなたがたは、わたしの遺骸を携えて、ここから上って行かなければならない」と言つて、イスラエルの人々に固く誓わせたからである。^{二〇}こうして彼らは更にスコテから進んで、荒野の端にあるエタムに宿営した。^{二一}主は彼らの前に行かれ、昼は雲の柱をもつて彼らを導き、夜は火の柱をもつて彼らを照し、昼も夜も彼らを進み行かせられた。^{二二}昼は雲の柱、夜は火の柱が、民の前から離れなかった。

第一四章

主はモーセに言われた、^一イスラエルの人々に告げ、引き返して、ミグドルと海との間にあ

あなたがたはそれにむかつて、海のかたわらに宿営しなければならぬ。^二パロはイスラエルの人々について、『彼らはその地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった』と言うであらう。^三わたしがパロの心をかたくなにするから、パロは彼らのあとを追うであらう。わたしはパロとそのすべての軍勢を破つて誉を得、エジプトびとにわたしが主であることを知らせるであらう。彼らはそのようにした。

^四民の逃げ去ったことが、エジプトの王に伝えられたので、パロとその家来たちとは、民に対する考えを変えて言つた、「われわれはなぜこのようにイスラエルを去らせて、われわれに仕えさせないようにしたのであらう。』^五それでパロは戦車を整え、みづからその民を率い、七また、えり抜き、戦車六百と、エジプトのすべての戦車およびすべての指揮者たちを率いた。^六主がエジプトの王パロの心をかたくなにされたので、彼はイスラエルの人々のあとを追つた。イスラエルの人々は意気揚々と出たのである。^七エジプトびとは彼らのあとを追ひ、パロのすべての馬と戦車およびその騎兵と軍勢とは、バアルゼボンの前にあるピハヒロテのあたりで、海のかたわらに宿営している彼らに追いついた。

^八パロが近寄つた時、イスラエルの人々は目を上げてエジプトびとが彼らのあとに進んできているのを見て、非常に恐れた。そしてイスラエルの人々は主にむかつて

叫び、「二かつモーセに言った、「エジプトに墓がないので、荒野で死なせるために、わたしたちを携え出したのですか。なぜわたしたちをエジプトから導き出して、こんなにするのですか。三わたしたちがエジプトであなただに告げて、『わたしたちを捨てておいて、エジプトびとに仕えさせてください』と言ったのは、このことではありませんか。荒野で死ぬよりもエジプトびとに仕える方が、わたしたちにはよかったです。四モーセは民に言った、「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきよう、あなたがたのためになされる救を見なさい。きよう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう。五主があなたがたのために戦われるから、あなたがたは黙していなさい。六主はモーセに言われた、「あなたは、なぜわたしにむかって叫ぶのか。イスラエルの人々に語って彼らを進み行かせなさい。七あなたはつえを上げ、手を海の上にさし伸べてそれを分け、イスラエルの人々に海の中のかわいた地を行かせなさい。八わたしがエジプトびとの心をかたくなにするから、彼らはそのあとを追ってはいるであらう。九こうしてわたしはバロとそのすべての軍勢および戦車と騎兵とを打ち破って誉を得よう。一〇わたしがバロとその戦車とその騎兵とを打ち破って誉を得るとき、エジプトびとはわたしが主であることを知るであらう。一一このとき、イスラエルの部隊の前行く神の使は

移って彼らのうしろに行った。雲の柱も彼らの前から移って彼らのうしろに立ち、二〇エジプトびとの部隊とイスラエルびとの部隊との間にきたので、そこに雲とやみがあり夜もすがら、かれとこれと近づくことなく、夜がすぎた。

二一モーセが手を海の上にさし伸べたので、主は夜もすがら強い東風をもって海を退かせ、海を陸地とされ、水は分れた。二二イスラエルの人々は海の中のかわいた地を行つたが、水は彼らの右と左に、かきとまった。二三エジプトびとは追つてきて、バロのすべての馬と戦車と騎兵とは、彼らのあとについて海の中にはいつた。二四暁の更には、主は火と雲の柱のうちからエジプトびとの軍勢を見おろして、エジプトびとの軍勢を乱し、二五その戦車の輪をきしらせて、進むのに重くされたので、エジプトびとは言つた、「われわれはイスラエルを離れて逃げよう。主が彼らのためにエジプトびとと戦う」。

二六そのとき主はモーセに言われた、「あなたの手を海の上にさし伸べて、水をエジプトびとと、その戦車と騎兵との上に流れ返らせなさい。二七モーセが手を海の上にさし伸べると、夜明けになつて海はいつもの流れに返り、エジプトびとはこれにむかつて逃げたが、主はエジプトびとを海の中に投げ込まれた。二八水は流れ返り、イスラエルのあとを追つて海にはいつた戦車と騎兵およびバロのすべての軍勢をおおい、ひとりも残らなかつた。二九し

かし、イスラエルの人々は海の中のかわいた地を行つたが、水は彼らの右と左に、かきとまった。

三〇このように、主はこの日イスラエルをエジプトびとの手から救われた。イスラエルはエジプトびとが海べに死んでゐるのを見た。ミイスラエルはまた、主がエジプトびとに行われた大いなるみわざを見た。それで民は主を恐れ、主とそのしもべモーセとを信じた。

第一五章 「そこでモーセとイスラエルの人々は、この歌を主にむかつて歌つた。彼らは歌つて言つた、

「主にむかつてわたしは歌おう、

彼は輝かしくも勝ちを得られた、

彼は馬と乗り手を海に投げ込まれた。

二主はわたしの力また歌、わたしの救となられた、

彼こそわたしの神、わたしは彼をたたえる、

彼はわたしの父の神、わたしは彼をあがめる。

三主はいくさびと、その名は主。

四彼はパロの戦車とその軍勢とを海に投げ込まれた、

そのすぐれた指揮者たちは紅海に沈んだ。

五大水は彼らをおおい、彼らは石のように淵に下った。

六主よ、あなたの右の手は力をもつて栄光にかがやく、

主よ、あなたの右の手は敵を打ち砕く。

七あなたは偉大なる威光をもつて、

あなたに立ちむかう者を打ち破られた。

あなたが怒りを発せられると、

彼らは、わらのように焼きつくされた。

八あなたの鼻の息によつて水は積みかさなり、

流れは堤となつて立ち、

大水は海のものなかに凝り固まつた。

九敵は言つた、『わたしは追ひ行き、追ひ着いて、

分捕物を分かち取ろう、

わたしの欲望を彼らによつて満たそう、

つるぎを抜こう、わたしの手は彼らを滅ぼそう』。

一〇あなたが息を吹かれると、海は彼らをおおい、

彼らは鉛のように、大水の中に沈んだ。

二主よ、神々のうち、だれがあなたに比べられようか、

だれがあなたのように、聖にして栄えあるもの、

ほむべくして恐るべきもの、

くすしきわざを行うものであるうか。

三あなたが右の手を伸べられると、

地は彼らをのんだ。

四あなたは、あがなわれた民を恵みをもつて導き、

み力をもつて、あなたの聖なるすまいに伴われた。

五もろもろの民は聞いて震え、

ベリシテの住民は苦しみに襲われた。

六エドムの族長らは、おどろき、

モアブの首長らは、わななき、

カナンの住民は、みな溶け去つた。

七恐れと、おののきとは彼らに臨み、

み腕の大きいなるゆえに、彼らは石のように黙した、
主よ、あなたの民の通りすぎるまで、

あなたが買いとられた民の通りすぎるまで、

七 あなたは彼らを導いて、

あなたの嗣業の山に植えられる。

主よ、これこそあなたのすまいとして、

みずから造られた所、

主よ、み手によって建てられた聖所。

八 主は永遠に統べ治められる。

九 パロの馬が、その戦車および騎兵と共に海にはいる

と、主は海の水を彼らの上に流れ返らされたが、イスラ

エルの人々は海の中のかわいた地を行った。三〇 そのとき、

アロンの姉、女預言者ミリアムはタンバリンを手に取り、

女たちも皆タンバリンを取って、踊りながら、そのあと

に従って出てきた。三一 そこでミリアムは彼らに和して

歌った、

「主にむかって歌え、

彼は輝かしくも勝ちを得られた、

彼は馬と乗り手を海に投げ込まれた」。

三二 さて、モーセはイスラエルを紅海から旅立たせた。

彼らはシユルの荒野に入り、三日のあいだ荒野を歩いた

が、水を得なかつた。三三 彼らはメラに着いたが、メラの

水は苦くて飲むことができなかった。それで、その所の

名はメラと呼ばれた。三四 ときに、民はモーセにつぶやい

て言った、「わたしたちは何を飲むのですか」。三五 モーセ
は主に叫んだ。主は彼に一本の木を示されたので、それ
を水に投げ入れると、水は甘くなった。

その所で主は民のために定めと、おきてを立てられ、彼

らを試みて、三六 言われた、「あなたが、もしあなたの神、

主の声によく聞き従ひ、その目に正しいと見られること

を行い、その戒めに耳を傾け、すべての定めを守るなら

ば、わたしは、かつてエジプトびとに下した病を一つも

あなたに下さないであろう。わたしは主であつて、あな

たをいやすものである」。

三七 こうして彼らはエリムに着いた。そこには水の泉十

二と、なつめやしの木七十本があつた。その所で彼らは

水のほとりに宿営した。

第一章 イスラエルの人々の全会衆はエリム

を出発し、エジプトの地を出て二か月目の十五日に、エ

リムとシナイとの間にあるシンの荒野にきたが、三〇 その

荒野でイスラエルの人々の全会衆は、モーセとアロンに

つぶやいた。三一 イスラエルの人々は彼らに言った、「われ

われはエジプトの地で、肉のなべのかたわらに座し、飽

きるほどパンを食べていた時に、主の手にかかつて死ん

でいたら良かった。あなたがたは、われわれをこの荒野

に導き出して、全会衆を餓死させようとしている」。

四 そのとき主はモーセに言われた、「見よ、わたしはあ

なたがたのために、天からパンを降らせよう。民は出て

日々ひびの分ぶんを日ひごとに集あつめなければならぬ。こうして彼らかれがわたしの律法りつぽうに従したがうかどうかを試こころみよう。五い六ろく日目めには、彼らかれが取り入れたものを調理ちようりすると、それは日ごとごとに集あつめるものの二倍ばいあるであらう。六むモーセとアロンは、イスラエルのすべての人々ひとびとに言った、「夕暮ゆうぐれには、あなたあなたがたは、エジプトの地ちからあなたあなたがたを導みちびき出だされたのが、主しゅであることを知るであらう。七しちまた、朝あさには、あなたあなたがたは主しゅの栄光えいこうを見るであらう。主しゅはあなたあなたがたが主しゅにむかつてつぶやくのを聞きかれたからである。あなたあなたがたは、いったいわれわれを何者なにものとして、われわれにむかつてつぶやくのか。八はちモーセはまた言いった、「主しゅは夕暮ゆうぐれにはあなたあなたがたに肉にくを与あたえて食たべさせ、朝あさにはパンを与あたえて飽あき足たらせられるであらう。主しゅはあなたあなたがたが、主しゅにむかつてつぶやくつぶやくを聞きかれたからである。いったいわれわれは何者なにものなのか。あなたあなたがたのつぶやくのは、われわれにむかつてでなく、主しゅにむかつてである」。

九くモーセはアロンに言いった、「イスラエルの人々ひとびとの全会衆ぜんかいしゆに言いいなさい、『あなたあなたがたは主しゅの前に近ちかづきなさい。主しゅがあなたあなたがたのつぶやくを聞きかれたからである』と」。一〇それでアロンがイスラエルの人々ひとびとの全会衆ぜんかいしゆに語かたったとき、彼らかれが荒野あらの方ほうを望のぞむと、見みよ、主しゅの栄光えいこうが雲くものうちに現あらわれていた。一一主しゅはモーセに言いわれた、「二にわたしはイスラエルの人々ひとびとのつぶやくを聞きいた。彼らかれに言いいな

さい、『あなたあなたがたは夕ゆには肉にくを食たべ、朝あさにはパンに飽あき足たりるであらう。そうしてわたしがあなたあなたがたの神かみ、主しゅであることを知るであらう』と」。

一三夕ゆべになると、うずらが飛とんできて宿営しゆくえいをおおった。また、朝あさになると、宿営しゆくえいの周圍しゆうゐに露つゆが降おりた。一四その降おりた露つゆがかわくと、荒野あらの面おもてには、薄うすいうるこのようなものがあり、ちようど地に結むすぶ薄うすい霜しものようであつた。一五イスラエルの人々ひとびとはそれを見みて互たがいに言いった、「これはなんであらう」。彼らかれはそれがなんであるのか知らなかつたからである。モーセは彼らかれに言いった、「これは主しゅがあなたあなたがたの食物しょくぶつとして賜たまはるパンである。一六主しゅが命めいじられるのはこうである、『あなたあなたがたは、おのおのその食たべるところに従したがつてそれを集あつめ、あなたあなたがたの人数にんすうに従したがつて、ひとりに一オメルずつ、おのおのその天幕てんまくにおけるもののためにそれを取りなさい』と」。一七イスラエルの人々ひとびとは、そのようにして、ある者は多おほく、ある者は少すくなく集あつめた。一八しかし、オメルでそれを計はかつてみると、多おほく集あつめた者にも余あまらず、少すくなく集あつめた者にも不足ふそくしなかつた。おのおのその食たべるところに従したがつて集あつめていた。一九モーセは彼らかれに言いった、「だれも朝あさまでそれを残のこしておいてはならない。二〇しかし彼らかれはモーセに聞きき従したがわないうで、ある者は朝あさまでそれを残のこしておいたが、虫むしがついて臭くさくなつた。モーセは彼らかれにむかつて怒いかつた。二一彼らかれは、おのおのその食たべるところに従したがつて、朝あさごとにそれを集あつめたが、

モーセに言われた、「あなたは民の前に進み行き、イスラエルの長老たちを伴い、あなたがナイル川を打った、つえを手にとって行きなさい。」六見よ、わたしはホレブの岩の上でああなたの前に立つであらう。あなたは岩を打ちなさい。水がそれから出て、民はそれを飲むことができる。モーセはイスラエルの長老たちの目の前で、そのように行つた。七そして彼はその所の名をマツサ、またメリバと呼んだ。これはイスラエルの人々が争つたゆえ、また彼らが「主はわたしたちのうちにおられるかどうか」と言つて主を試みたからである。

八とくにアマレクがきて、イスラエルとレビデムで戦つた。九モーセはヨシユアに言つた、「われわれのために人を選び、出てアマレクと戦いなさい。わたしはあす神のつえを手にとって、丘の頂に立つであらう。」一〇ヨシユアはモーセが彼に言つたようにし、アマレクと戦つた。モーセとアロンおよびホルは丘の頂に登つた。二モーセが手を上げているとイスラエルは勝ち、手を下げるとアマレクが勝つた。三しかしモーセの手が重くなつたので、アロンとホルが石を取つて、モーセの足もとに置くと、彼はその上に座した。そしてひとりはこちらに、ひとりはこちらにいて、モーセの手をささえたので、彼の手は日没までさがらなかつた。四ヨシユアは、つるぎにかけてアマレクとその民を打ち敗つた。

五主はモーセに言われた、「これを書物にしるして記

念とし、それをヨシユアの耳に入れなさい。わたしは天が下からアマレクの記憶を完全に消し去るであらう。」六モーセは一つの祭壇を築いてその名を「主はわが旗」と呼んだ。七そしてモーセは言つた、

「主の旗にむかつて手を上げる、
主は世々アマレクと戦われる。」

第一 八章 一さて、モーセのしゅうと、ミデアン

の祭司エテロは、神がモーセと、み民イスラエルとにされたすべての事、主がイスラエルをエジプトから導き出されたことを聞いた。二それでモーセのしゅうと、エテロは、さきに送り返されていたモーセの妻ツボラと、三そのふたりの子とを連れてきた。そのひとりの名はゲルシヨムといった。モーセが、「わたしは外国で寄留者となつてゐる」と言つたからである。四ほかのひとりの名はエリエゼルといった。「わたしの父の神はわたしの助けであつて、パロのつるぎからわたしを救われた」と言つたからである。五こうしてモーセのしゅうと、エテロは、モーセの妻子を伴つて、荒野に行き、神の山に宿営してゐるモーセの所にきた。六その時、ある人がモーセに言つた、「ごらんなさい。あなたのしゅうと、エテロは、あなたの妻とそのふたりの子とを連れて、あなたの所にこられます。」七そこでモーセはしゅうとを出迎えて、身をかがめ、彼に口づけして、互に安否を問ひ、共に天幕にはいつた。八そしてモーセは、主がイスラエルのために、パロ

とエジプトびとにされたすべての事、道で出会ったすべての苦しみ、また主が彼らを救われたことを、しゅうとに物語ったので、エテロは主がイスラエルをエジプトびとの手から救い出して、もろもろの恵みを賜わったことを喜んだ。

「そしてエテロは言った、『主はほむべきかな。主はあなたがたをエジプトびとの手と、パロの手から救い出し、民をエジプトびとの手の下から救い出された。』今こそわたしは知った。実に彼らはイスラエルびとにむかって高慢にふるまったが、主はあらゆる神々にまさって大いにいますことを」。三そしてモーセのしゅうとエテロは燔祭と犠牲を神に供え、アロンとイスラエルの長老たちもみなきて、モーセのしゅうとと共に神の前で食事をした。

「三あくる日モーセは座して民をさばいたが、民は朝から晩まで、モーセのまわりに立っていた。二四モーセのしゅうとは、彼がすべて民にしていることを見て、言った、『あなたが民にしていることはなんですか。あなたひとり座し、民はみな朝から晩まで、あなたのまわりに立っているのはなぜですか』。二五モーセはしゅうとに言った、『民が神に伺おうとして、わたしの所に来るからです。二六彼らは事があれば、わたしの所にきます。わたしは相互の間をさばいて、神の定めと判決を知らせるのです』。二七モーセのしゅうとは彼に言った、『あなたの

していることは良くない。一八あなたも、あなたと一緒にいるこの民も、必ず疲れ果てるであろう。このことはあなたに重過ぎるから、ひとりですることができない。一九今わたしの言うことを聞きなさい。わたしはあなたに助言する。どうか神があなたと共にいますように。あなたは民のために神の前にいて、事件を神に述べなさい。二〇あなたは彼らに定めと判決を教え、彼らの歩むべき道となすべき事を彼らに知らせなさい。二一また、すべての民のうちから、有能な人で、神を恐れ、誠実で不義の利を憎む人を選び、それを民の上に立てて、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長としなさい。二二平素は彼らに民をさばかせ、大事件はすべてあなたの所に持つてこさせ、小事件はすべて彼らにさばかせなさい。こうしてあなたが身軽にし、あなたと共に彼らに、荷を負わせなさい。二三あなたが、もしこの事を行い、神もまたあなたに命じられるならば、あなたは耐えることができ、この民もまた、みな安んじてその所に帰ることができよう」。二四モーセはしゅうとの言葉に従い、すべて言われたようにした。二五すなわち、モーセはすべてのイスラエルのうちから有能な人を選んで、民の上に長として立て、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長とした。二六平素は彼らが民をさばき、むづかしい事件はモーセに持つてきたが、小さい事件はすべて彼らみづからさばいた。二七こうしてモーセはしゅうとを送り返したので、その国

に帰って行つた。

第十九章

イスラエルの人々は、エジプトの地を

出て後三月目のその日に、シナイの荒野にはいつた。二す

なわち彼らはレピデムを出立してシナイの荒野に入り、

荒野に宿営した。イスラエルはその所で山の前に宿営し

た。三さて、モーセが神のもとに登ると、主は山から彼を

呼んで言われた、「このように、ヤコブの家に言い、イス

ラエルの人々に告げなさい、四『あなたがたは、わたしが

エジプトびとにした事と、あなたがたを鷲の翼に載せて

わたしの所にこさせたことを見た。五それで、もしあな

たがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契

約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わ

たしの宝となるであらう。全地はわたしの所有だからで

ある。六あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、ま

た聖なる民となるであらう。これがあなたのイスラエ

ルの人々に語るべき言葉である。』

七それでモーセは行って民の長老たちを呼び、主が命じ

られたこれらの言葉を、すべてその前に述べたので、民

はみな共に答えて言つた、「われわれは主が言われたこと

を、みな行います。』モーセは民の言葉を主に告げた。

八主はモーセに言われた、「見よ、わたしは濃い雲のうち

にあつて、あなたに臨むであらう。それはわたしがあな

たと語るのを民に聞かせて、彼らに長くあなたを信じさ

せるためである。』

モーセは民の言葉を主に告げた。一〇主はモーセに言わ

れた、「あなたは民のところに行つて、きようとあす、彼

らをきよめ、彼らにその衣服を洗わせ、二三日目までに

備えさせなさい。三日目に主が、すべての民の目の前で、

シナイ山に下るからである。三あなたは民のために、周

圍に境を設けて言いなさい、『あなたがたは注意して、山

に上らず、また、その境界に触れないようにしなさい。

山に触れる者は必ず殺されるであらう。四手をそれに触

れてはならない。触れる者は必ず石で打ち殺されるか、

射殺されるであらう。五獣でも人でも生きることができな

い。六ラッパが長く響いた時、彼らは山に登ることができ

る。』七そこでモーセは山から民のところを下り、民

をきよめた。彼らはその衣服を洗った。八モーセは民

に言つた、「三日目までに備えをしなさい。女に近づい

てはならない。』

一六三日目の朝となつて、かみなりと、いなずまと厚い

雲とが、山の上にあり、ラッパの音が、はなはだ高く響

いたので、宿営における民はみな震えた。一七モーセが民を

神に会わせるために、宿営から導き出したので、彼らは

山のふもとに立つた。一八シナイ山は全山煙った。主が火

のなかにあつて、その上に下られたからである。その煙

は、かまどの煙のように立ち上り、全山はげしく震えた。

一九ラッパの音が、いよいよ高くなつたとき、モーセは語

り、神は、かみなりをもつて、彼に答えられた。二〇主は

シナイ山の頂に下られた。そして主がモーセを山の頂に召されたので、モーセは登った。三主はモーセに言われた、「下って行って民を戒めなさい。民が押し破って、主のところに来て、見ようとし、多くのものが死ぬことのないようにするためである。三主に近づく祭司たちにもまた、その身をきよめさせなさい。主が彼らを打つことのないようにするためである」。三モーセは主に言った、「民はシナイ山に登ることはできないでしょう。あなたがわたしたちを戒めて『山のまわりに境を設け、それをきよめよ』と言われたからです」。二主は彼に言われた、「行け、下れ。そしてあなたはアロンと共に登ってきなさい。ただし、祭司たちと民とが、押し破って主のところに登ることのないようにしなさい。主が彼らを打つことのないようにするためである」。二五モーセは民の所に下って行って彼らに告げた。

第二〇章 一神はこのすべての言葉を語って言われた。

二「わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地、奴隸の家から導き出した者である。

三あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。

四あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。土は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水のなかにあるものの、どんな形をも造ってはならない。

五それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものには、父の罪を子に報いて、三四代に及ぼし、六わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう。

七あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう。

八安息日を覚えて、これを聖とせよ。九六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。一〇七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたはあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。二主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。

三あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。

四あなたは殺してはならない。

五あなたは姦淫してはならない。

六あなたは盗んではならない。

七あなたは隣人について、偽証してはならない。

八あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のもの

のをむさぼってはならない」。

一八民は皆、かみなりと、いなずまと、ラッパの音と、山の煙けむりっているのを見た。民は恐れおののき、遠く離れて立った。一九彼らはモーセに言った、「あなたがわたしたちに語ってください。わたしたちは聞き従います。神がわたしたちに語られぬようにしてください。それでなければ、わたしたちは死ぬでしよう」。二〇モーセは民に言った、「恐れてはならない。神はあなたがたを試みるため、またその恐れをあなたがたの目の前において、あなたがたが罪を犯さないようにするために臨まれたのである」。二一そこで、民は遠く離れて立ったが、モーセは神のおられる濃い雲に近づいて行った。二三主はモーセに言われた、「あなたはイスラエルの人々にこう言いなさい、『あなたがたは、わたしが天からあなたがたと語るのを見た。三あなたたがたはわたしと並べて、何をも造ってはならない。銀の神々も、金の神々も、あなたがたのために、造ってはならない。四あなたはわたしのために土の祭壇を築き、その上にあなたの燔祭、酬恩祭、羊、牛をささげなければならぬ。わたしの名を覚えさせるすべての所で、わたしはあなたに臨んで、あなたを祝福するであろう。五あなたがもしわたしに石の祭壇を造るならば、切り石で築いてはならない。あなたがもし、のみをそれに当てるならば、それをけがすからである。六あなたは階段によって、わたしの祭壇に登ってはならない。あなたの隠

し所が、その上にあらわれることのないようにするためである』。

第二一章 一これはあなたが彼らの前に示すべき

おきてである。二あなたがヘブルびとである奴隷を買う時は、六年のあいだ仕えさせ、七年目には無償で自由の身として去らせなければならぬ。三彼がもし独身できたならば、独身で去らなければならぬ。もし妻を持っていたならば、その妻は彼と共に去らなければならぬ。四もしその主人が彼に妻を与えて、彼に男の子また女の子を産んだならば、妻とその子供は主人のものとなり、彼は独身で去らなければならぬ。五奴隷がもし『わたしは、わたしの主人と、わたしの妻と子供を愛します。わたしは自由の身となつて去ることを好みません』と明言するならば、六その主人は彼を神のもとに連れて行き、戸あるいは柱のところに連れて行って、主人は、きりで彼の耳を刺し通さなければならぬ。そうすれば彼はいつまでもこれに仕えるであろう。

七もし人がその娘を女奴隷として売るならば、その娘は男奴隷が去るように去ってはならない。八彼女がもし彼女を自分のものと定めた主人の氣にいらぬ時は、その主人は彼女が、あがなわれることを、これに許さなければならぬ。彼はこれを欺いたのであるから、これを他国の民に売る権利はない。九彼がもし彼女を自分の子のもものと定めるならば、これを娘のように扱わなければ

ならない。一〇彼が、たとい、ほかに女をめとることがあつても、前の女に食物と衣服を与えることと、その夫婦の道とを絶えさせてはならない。二彼がもしこの三つを行わないならば、彼女は金を償わずに去ることができ

る。三人を撃つて死なせた者は、必ず殺されなければならない。三しかし、人がたくむことをしないのに、神が彼の手を人をわたされることのある時は、わたしはあなたのために一つの所を定めよう。彼はその所へのがれることができ。四しかし人がもし、ことさらにその隣人を欺いて殺す時は、その者をわたしの祭壇からでも、捕えて行つて殺さなければならない。

五自分の父または母を撃つ者は、必ず殺されなければならない。二六人をかどわかし

た者は、これを売っていても、なお彼の手にあつても、必ず殺されなければならない。

二七自分の父または母をのろう者は、必ず殺されなければならない。

二八人が互に争ひ、そのひとりが石または、こぶしで相手を撃つた時、これが死なないで床につき、二九再び起きあがって、つえにすぎり、外を歩くようになるならば、これを撃つた者は、ゆるされるであらう。ただその仕事を休んだ損失を償ひ、かつこれにじゅうぶん治療させなければならぬ。

三〇もし人がつえをもつて、自分の男奴隷または女奴隷を撃ち、その手の下に死ぬならば、必ず罰せられなければならない。三しかし、彼がもし一日か、ふつか生き延びるならば、その人は罰せられない。奴隷は彼の財産だからである。

三一もし人が互に争つて、身ごもつた女を撃ち、これに流産させるならば、ほかの害がなくとも、彼は必ずその女の夫の求める罰金を課せられ、裁判人の定めるとおりに支払わなければならない。三二しかし、ほかの害がある時は、命には命、三三目には目、歯には歯、手には手、足には足、三三焼く傷には焼く傷、傷には傷、打ち傷には打ち傷をもつて償わなければならない。

三六もし人が自分の男奴隷の片目、または女奴隷の片目を撃ち、これをつぶすならば、その目のためにこれを自由の身として去らせなければならない。三七また、もしその男奴隷の一本の歯、またはその女奴隷の一本の歯を撃ち落すならば、その歯のためにこれを自由の身として去らせなければならない。

三八もし牛が男または女を突いて殺すならば、その牛は必ず石で撃ち殺されなければならない。その肉は食べてはならない。しかし、その牛の持ち主は罪がない。二九牛がもし以前から突く癖があつて、その持ち主が注意されても、これを守りおかなかつたために、男または女を殺したならば、その牛は石で撃ち殺され、その持ち主もま

た殺されなければならぬ。三 彼がもし、あがないの金を課せられたならば、すべて課せられたほどのものを、命の償いに支払わなければならぬ。三 男の子を突いても、女の子を突いても、この定めに従って処置されなければならぬ。三 牛がもし男奴隷または女奴隷を突くならば、その主人に銀三十シケルを支払わなければならぬ。またその牛は石で撃ち殺されなければならぬ。

三 もし人が穴をあけたままに置き、あるいは穴を掘ってこれにおおいをしないために、牛または、ろばがこれに落ち込むことがあれば、三 穴の持ち主はこれを償い、金をその持ち主に支払わなければならぬ。しかし、その死んだ獣は彼のものとなるであらう。

三 ある人の牛が、もし他人の牛を突いて殺すならば、彼らはその生きている牛を売って、その価を分け、またその死んだものをも分けなければならぬ。三 あるいはその牛が以前から突く癖のあることが知られているのに、その持ち主がこれを守りおかなかったならば、その人は必ずその牛のために牛をもって償わなければならぬ。しかし、その死んだ獣は彼のものとなるであらう。

第二章 一 もし人が牛または羊を盗んで、これを殺し、あるいはこれを売るならば、彼は一頭の牛のために五頭の牛をもって、一頭の羊のために四頭の羊をもって償わなければならぬ。三 彼は必ず償わなければならぬ。もし彼に何も無い時は、彼はその盗んだ物の

ために身を売られるであらう。四 もしその盗んだ物がお生きて、彼の手もとにあれば、それは牛、ろば、羊のいずれにせよ、これを二倍にして償わなければならぬ。二 もし盗びとが穴をあけてはいるのを見て、これを撃って殺したときは、その人には血を流した罪はない。三 しかし日がのぼって後ならば、その人に血を流した罪がある。

五 もし人が畑またはぶどう畑のものを食わせ、その家畜を放つて他人の畑のものを食わせた時は、自分の畑の最も良い物と、ぶどう畑の最も良い物をもって、これを償わなければならぬ。

六 もし火が出て、いばらに移り、積みあげた麦束、または立穂、または畑を焼いたならば、その火を燃やした者は、必ずこれを償わなければならぬ。

七 もし人が金銭または物品の保管を隣人に託し、それが隣人の家から盗まれた時、その盗びとが見つけれられたならば、これを二倍にして償わなければならない。八 もし盗びとが見つけれなければ、家の主人を神の前に連れてきて、彼が隣人の持ち物に手をかけたかどうかを、確かめなければならない。

九 牛であれ、ろばであれ、羊であれ、衣服であれ、あるいはどんな失った物であれ、それについて言い争いが起り『これがそれです』と言う者があれば、その双方の言い分を、神の前に持ち出さなければならない。そして

神が有罪と定められる者は、それを二倍にしてその相手に償わなければならない。

一〇もし人が、ろば、または牛、または羊、またはどんな家畜でも、それを隣人に預けて、それが死ぬか、傷つくか、あるいは奪い去られても、それを見た者がなければ、二双方の間に、隣人の持ち物に手をかけなかったという誓いが、主の前になされなければならない。そうすれば、持ち主はこれを受け入れ、隣人は償うに及ばない。三けれども、それがまさしく自分の所から盗まれた時は、その持ち主に償わなければならない。四もしそれが裂き殺された時は、それを証拠として持って来るならば、その裂き殺されたものは償うに及ばない。

五もし人が隣人から家畜を借りて、それが傷つき、または死ぬ場合、その持ち主がそれと共にいない時は、必ずこれを償わなければならない。六もしその持ち主がそれと共にあれば、それを償うに及ばない。もしそれが賃借りしたものであれば、その借賃をそれに当てなければならない。

七もし人がまだ婚約しない処女を誘って、これと寝たならば、彼は必ずこれに花嫁料を払って、妻としなければならない。八もしその父がこれをその人に与えることをかたく拒むならば、彼は処女の花嫁料に当るほどの金を払わなければならない。

九魔法使の女は、これを生かしておいてはならない。

一〇すべて獣を犯す者は、必ず殺されなければならない。一一主のほか、他の神々に犠牲をささげる者は、断ち滅ぼされなければならない。

一二あなたは寄留の他国人を苦しめてはならない。また、これをしえたげてはならない。あなたがたも、かつてエジプトの国で、寄留の他国人であったからである。三あなたがたはすべて寡婦、または孤児を悩ましてはならない。四もしあなたが彼らを悩まして、彼らがわたしにむかって叫ぶならば、わたしは必ずその叫びを聞くであろう。五そしてわたしの怒りは燃えたち、つるぎをもってあなたがたを殺すであろう。あなたがたの妻は寡婦となり、あなたがたの子供たちは孤児となるであろう。

六あなたが、共にいるわたしの民の貧しい者に金を貸す時は、これに対して金貸しのようにしてはならない。七これから利子を取ってはならない。八もし隣人の上着を質に取るならば、日の入るまでにそれを返さなければならない。九これは彼の身をおおう、ただ一つの物、彼の膚のための着物だからである。彼は何を着て寝ることができよう。彼がわたしにむかって叫ぶならば、わたしはこれに聞くであろう。わたしはあわれみ深いからである。一〇あなたは神をのしってはならない。また民の司をのろつてはならない。

一一あなたの豊かな穀物と、あふれる酒とをささげるに、ためらってはならない。

あなたのういごを、わたしにささげなければならぬ。
 三 あなたはまた、あなたの牛と羊をも同様にしなければならぬ。七日の間その母と共に置いて、八日目にそれをわたしに、ささげなければならぬ。

三 あなたがたは、わたしに対して聖なる民とならなければならぬ。あなたがたは、野で裂き殺されたものの肉を食べてはならない。それは犬に投げ与えなければならぬ。

第二三章 一 あなたは偽りのうわさを言ひふらしはならない。あなたは悪人と手を携えて、悪意のある証人になつてはならない。二 あなたは多数に従つて悪をおこなつてはならない。あなたは訴訟において、多数に従つて片寄り、正義を曲げるような証言をしてはならない。三 また貧しい人をその訴訟において、曲げてかばってはならない。

四 もし、あなたが敵の牛または、ろばの迷っているのに会う時は、必ずこれを彼の所に連れて行って、帰さなければならぬ。五 もしあなたが憎む者のろばが、その荷物の下に倒れ伏しているのを見る時は、これを見捨てて置かないように気をつけ、必ずその人に手を貸して、これを起さなければならぬ。

六 あなたは貧しい者の訴訟において、裁判を曲げてはならない。七 あなたは偽り事に遠ざからなければならぬ。あなたは罪のない者と正しい者とを殺してはならない。

わたしは悪人を義とすることはないからである。八 あなたは賄賂を取つてはならない。賄賂は人の目をくらまし、正しい者の事件をも曲げさせるからである。

九 あなたは寄留の他国人をしえたげてはならない。あなたがたはエジプトの国で寄留の他国人であつたので、寄留の他国人の心を知っているからである。

一〇 あなたは六年のあいだ、地に種をまき、その産物を取り入れることができる。二 しかし、七年目には、これを休ませて、耕さずに置かなければならない。そうすれば、あなたの民の貧しい者がこれを食べ、その残りは野の獣が食ふことができる。あなたのぶどう畑も、オリブ畑も同様にしなければならぬ。

三 あなたは六日のあいだ、仕事をし、七日目には休まなければならぬ。これはあなたの牛および、ろばが休みを得、またあなたのはしための子および寄留の他国人を休ませるためである。四 わたしが、あなたがたに言つたすべての事に心を留めなさい。他の神々の名を唱えてはならない。また、これをあなたのくちびるから聞えさせてはならない。

四 あなたは年に三度、わたしのために祭を行わなければならぬ。五 あなたは種入れぬパンの祭を守らなければならぬ。わたしが、あなたに命じたように、アビブの月の定めの際に七日のあいだ、種入れぬパンを食べなければならぬ。それはその月にあなたがエジプトから

出たからである。だれも、むなし手でわたしの前に出てはならない。一六また、あなたが畑にまいて獲た物の勤勞の初穂をささげる刈入れの祭と、あなたの勤勞の実を畑から取り入れる年の終りに、取入れの祭を行わなければならない。一七男子はみな、年に三度、主なる神の前に出なければならない。

一八あなたはわたしの犠牲の血を、種を入れたパンと共にささげてはならない。また、わたしの祭の脂肪を翌朝まで残して置いてはならない。

一九あなたの土地の初穂の最も良い物を、あなたの神、主の家に携えてこなければならぬ。

あなたは子やぎを、その母の乳で煮てはならない。

二〇見よ、わたしは使をあなたの前につかわし、あなたを道で守らせ、わたしが備えた所に導かせるであろう。

二一あなたはその前に慎み、その言葉に聞き従い、彼にそむいてはならない。わたしの名が彼のうちにあるゆえに、彼はあなたがたのとがをゆるさないのである。

二三しかし、もしあなたが彼の声によく聞き従い、すべてわたしが語ることを行ふならば、わたしはあなたの敵を敵とし、あなたのあだをあだとするであろう。

二四わたしはあなたの前に行つて、あなたをアモリびと、ヘテびと、ペリジびと、カナンびと、ヒビびと、およびエブスびとの所に導き、わたしは彼らを滅ぼすであろう。二五あなたは彼らの神々を拜んではならない。これ

に仕えてはならない。また彼らのおこないにならなくてはならない。あなたは彼らを全く打ち倒し、その石の柱を打ち碎かなければならない。二六あなたがたの神、主に仕えなければならぬ。そうすれば、わたしはあなたがたのパンと水を祝し、あなたがたのうちから病を除き去るであろう。二七あなたがたの国の中には流産する女もなく、不妊の女もなく、わたしはあなたがたの日の数を満ち足らせるであろう。二八わたしはあなたの先に、わたしの恐れをつかわし、あなたが行く所の民を、ことごとく打ち敗り、すべての敵に、その背をあなたがたの方へ向けさせるであろう。二九わたしはまた、くまばちをあなたがたの先につかわすであろう。これはヒビびと、カナンびと、およびヘテびとをあなたの前から追い払うであろう。三〇しかし、わたしは彼らを一年のうちには、あなたの前から追い払わないであろう。土地が荒れすたれ、野の獣が増えて、あなたを害することのないためである。三一わたしは徐々に彼らをあなたの前から追い払うであろう。あなたは、ついにふえひろがつて、この地を継ぐようになるであろう。三二わたしは紅海からペリシテびとの海に至るまでと、荒野からユフラテ川に至るまでを、あなたの領域とし、この地に住んでいる者をあなたの手にわたすであろう。三三あなたは彼らをあなたの前から追い払うであろう。三三あなたは彼ら、および彼らの神々と契約を結んではならない。三三彼らはあなたの国に住んではならない。彼らがあなた

をいざなつて、わたしに対して罪を犯させることのないためである。もし、あなたが彼らの神に仕えるならば、それは必ずあなたのわなとなるであろう」。

第二四章 一また、モーセに言われた、「あなたは

アロン、ナダブ、アビウおよびイスラエルの七十人の長老たちと共に、主のもとにのぼつてきなさい。そしてあなたがたは遠く離れて礼拝しなさい。ただモーセひとりだけが主に近づき、他の者は近づいてはならない。また、民も彼と共にのぼつてはならない」。

三モーセはきて、主のすべての言葉と、すべてのおきてとを民に告げた。民はみな同音に答えて言った、「わたしたちは主の仰せられた言葉を皆、行います」。四そしてモーセは主の言葉を、ことごとく書きしるし、朝はやく起きて山のふもとに祭壇を築き、イスラエルの十二部族に従つて十二の柱を建て、五イスラエルの人々のうちの若者たちをつかわして、主に燔祭をささげさせ、また酬恩祭として雄牛をささげさせた。六その時モーセはその血の半ばを取つて、鉢に入れ、また、その血の半ばを祭壇に注ぎかけた。七そして契約の書を取つて、これを民に読み聞かせた。すると、彼らは答えて言った、「わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います」。八そこでモーセはその血を取つて、民に注ぎかけ、そして言った、「見よ、これは主がこれらのすべての言葉に基いて、あなたがたと結ばれる契約の血である」。

九こうしてモーセはアロン、ナダブ、アビウおよびイスラエルの七十人の長老たちと共にのぼつて行つた。一〇そして、彼らがイスラエルの神を見ると、その足の下にはサファイアの敷石のごとき物があり、澄み渡るおおぞらのようであつた。一二神はイスラエルの人々の指導者たちを手につけられなかつたので、彼らは神を見て、飲み食ひした。

三ときに主はモーセに言われた、「山に登り、わたしの所にきて、そこにいなさい。彼らを教えるために、わたしが律法と戒めとを書きしるした石の板をあなたに授けるであろう」。二三そこでモーセは従者ヨシユアと共に立ちあがり、モーセは神の山に登つた。二四彼は長老たちに言った、「わたしたちがあなたがたの所に帰つて来るまで、ここで待つていなさい。見よ、アロンとホルとが、あなたがたと共にいるから、事ある者は、だれでも彼らの所へ行きなさい」。

二五こうしてモーセは山に登つたが、雲は山をおおつていた。二六主の栄光がシナイ山の上にとどまり、雲は六日のあいだ、山をおおつていたが、七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。二七主の栄光は山の頂で、燃える火のようにイスラエルの人々の目に見えたが、二八モーセは雲の中にはいつて、山に登つた。そしてモーセは四十日四十夜、山にいた。

第二五章 一主はモーセに言われた、二イスラエ

ルの人々に告げて、わたしのためにささげ物を携えてこさせなさい。すべて、心から喜んでする者から、わたしにささげる物を受け取りなさい。三あなたたがたが彼らから受け取るべきささげ物はこれである。すなわち金、銀、青銅、青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸、やぎの毛糸、五あかね染の雄羊の皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、六とし油、注ぎ油と香ばしい薫香のための香料、縞めのう、エポデと胸当にはめる宝石。八また、彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである。九すべてあなたがたに示す幕屋の型および、そのものろの器の型に従って、これを造らなければならない。一〇彼らはアカシヤ材で箱を造らなければならない。長さは二キュビト半、幅は一キュビト半、高さは一キュビト半。一一あなたは純金でこれをおおわなければならない。すなわち内外ともにこれをおおい、その上の周囲に金の飾り縁を造らなければならない。三また金の環四つを鑄て、その四すみに取り付けなければならない。すなわち二つの環をこちら側に、二つの環をあちら側に付けなければならない。三またアカシヤ材のさおを造り、金でこれをおおわなければならない。四そしてそのさおを箱の側面の環に通し、それで箱をかつがなければならない。五さおは箱の環に差して置き、それを抜き放してはならない。六そしてその箱に、わたしがあなたに与えるあかしの板を納めなければならない。七また純金の贖罪

所を造らなければならない。長さは二キュビト半、幅は一キュビト半。八また二つの金のケルビムを造らなければならない。これを打物造りとし、贖罪所の両端に置かなければならない。九一つのケルブをこの端に、一つのケルブをかの端に造り、ケルビムを贖罪所の一部としてその両端に造らなければならない。一〇ケルビムは翼を高く伸べ、その翼をもって贖罪所をおおい、顔は互にむかい合い、ケルビムの顔は贖罪所にむかわなければならない。一一あなたがたは贖罪所を箱の上に置き、箱の中にはわたしが授けるあかしの板を納めなければならない。一二その所でわたしはあなたに会い、贖罪所の上から、あかしの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの人のために、わたしが命じようとするもろもろの事を、あなたに語るであらう。一三あなたはまたアカシヤ材の机を造らなければならない。長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一キュビト半。一四純金でこれをおおい、周囲に金の飾り縁を造り、一五またその周囲に手幅の棧を造り、その棧の周囲に金の飾り縁を造らなければならない。一六また、そのために金の環四つを造り、その四つの足のすみ四か所にその環を取り付けなければならない。一七環は棧のわきに付けて、机をかつぐさおを入れる所としなければならない。一八またアカシヤ材のさおを造り、金でこれをおおい、それをもつて、机をかつがなければならない。一九また、そ

の皿、乳香を盛る杯および灌祭を注ぐための瓶と鉢を造り、これらは純金で造らなければならない。三〇そして机の上には供えのパンを置いて、常にわたしの前にあるようにしなければならぬ。

三二また純金の燭台を造らなければならない。燭台は打物造りとし、その台、幹、萼、節、花を一つに連ならせなければならぬ。三三また六つの枝をそのわきから出させ、燭台の三つの枝をこの側から、燭台の三つの枝をこの側から出させなければならぬ。三四あめんどうの花の形をした三つの萼が、それぞれ節と花をもつて一つの枝にあり、また、あめんどうの花の形をした三つの萼が、それぞれ節と花をもつてほかの枝にあるようにし、燭台から出る六つの枝を、みなそのようにしなければならぬ。三五また、燭台の幹には、あめんどうの花の形をした四つの萼を付け、その萼にはそれぞれ節と花をもたせなさい。三六すなわち二つの枝の下に一つの節を取り付け、次の二つの枝の下に一つの節を取り付け、更に次の二つの枝の下に一つの節を取り付け、燭台の幹から出る六つの枝に、みなそのようにしなければならぬ。三七それらの節と枝を一つに連ね、ことごとく純金の打物造りにしなければならぬ。三八また、そのともしび皿を七つ造り、そのともしび皿に火をともして、その前方を照させなければならぬ。三九その芯切りばさみと、芯取り皿は純金で造らなければならぬ。四〇すなわち純金一タラン

トで燭台と、これらのもろもろの器とが造られなければならない。四一そしてあなたが山で示された型に従い、注意してこれを造らなければならない。

第二十六章 一あなたはまた十枚の幕をもつて幕屋を造らなければならない。すなわち亜麻の撚糸、青糸、紫糸、緋糸で幕を作り、巧みなわざをもつて、それにケルビムを織り出さなければならない。二幕の長さは、おのおの二十八キュビト、幕の幅は、おのおの四キュビトで、幕は皆同じ寸法でなければならない。三その幕五枚を互に連ね合わせ、また他の五枚の幕をも互に連ね合わせなければならぬ。四その一連の端にある幕の縁に青色の乳をつけ、また他の一連の端にある幕の縁にもそのようにしなければならぬ。五あなたは、その一枚の幕に乳五十をつけ、また他の一連の幕の端にも乳五十をつけ、その乳を互に相向かわせなければならぬ。六あなたはまた金の輪五十を作り、その輪で幕を互に連ね合わせて一つの幕屋にしなければならぬ。

七また幕屋をおおう天幕のためにやぎの毛糸で幕を作らなければならない。すなわち幕十一枚を作り、八その一枚の幕の長さは三十キュビト、その一枚の幕の幅は四キュビトで、その十一枚の幕は同じ寸法でなければならぬ。九そして、その幕五枚を一つに連ね合わせ、またその幕六枚を一つに連ね合わせて、その六枚目の幕を天幕の前で折り重ねなければならぬ。一〇またその一連の

端にある幕の縁に乳五十をつけ、他の一連の幕の縁にも乳五十をつけなさい。

二そして青銅の輪五十を作り、その輪を乳に掛け、その天幕を連ね合わせて一つにし、三その天幕の幕の残りの垂れる部分、すなわちその残りの半幕を幕屋のうしろに垂れさせなければならぬ。四そして天幕の幕のたけで余るものの、こちらのキュビトと、あちらのキュビトとは、幕屋をおおうように、その両側のこちらとあちらとに垂れさせなければならぬ。五また、あかね染めの雄羊の皮で天幕のおおいと、じゅごんの皮でその上にかけるおおいとを造らなければならぬ。

六あなたは幕屋のために、アカシヤ材で立枠を造らなければならぬ。七枠の長さを十キュビト、枠の幅を一キュビト半とし、八枠ごとに二つの柄を造って、かれとこれとを食い合わせ、幕屋のすべての枠にこのようにしなければならぬ。九あなたは幕屋のために枠を造り、南側のために枠二十とし、一〇その二十の枠の下に銀の座四十を造って、この枠の下に、その二つの柄のために二つの座を置き、かの枠の下にもその二つの柄のために二つの座を置かなければならぬ。一一また幕屋の他の側、すなわち北側のために枠二十を造り、一二その銀の座四十を造って、この枠の下に、二つの座を置き、かの枠の下にも二つの座を置かなければならぬ。一三また幕屋のうしろ、すなわち西側のために枠六つを造り、一四幕屋のう

しろの二つのすみのために枠二つを造らなければならぬ。一五これらは下で重なり合い、同じくその頂でも第一の環まで重なり合うようにし、その二つともそのようにしなければならぬ。それらは二つのすみのために設けるものである。一六こうしてその枠は八つ、その銀の座は十六、この枠の下に二つの座、かの枠の下にも二つの座を置かなければならぬ。

一七またアカシヤ材で横木を造らなければならぬ。すなわち幕屋のこの側の枠のために五つ、一八また幕屋の側の枠のために横木五つ、幕屋のうしろの西側の枠のために横木五つを造り、一九枠のまん中にある中央の横木は端から端まで通るようにしなければならぬ。二〇そしてその枠を金でおおい、また横木を通すその環を金で造り、また、その横木を金でおおわなければならぬ。二一こうしてあなたは山で示された様式に従って幕屋を建てなければならぬ。

二二また青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸で垂幕を作り、巧みなわざをもって、それにケルビムを織り出さなければならぬ。二三そして金でおおった四つのアカシヤ材の柱の金の鉤にこれを掛け、その柱は四つの銀の座の上にすえなければならぬ。二四その垂幕の輪を鉤に掛け、その垂幕の内にあかしの箱を納めなさい。その垂幕はあなたがたのために聖所と至聖所とを隔て分けるであらう。二五また至聖所にあるあかしの箱の上に贖罪所を置かなければ

ればならない。三十五 としてその垂幕の外に机を置き、幕屋の南側に、机に向かい合わせて燭台を置かなければならない。ただし机は北側に置かなければならない。

三十六 あなたはまた天幕の入口のために青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸で、色とりどりに織ったとばりを作らなければならぬ。三十七 あなたはそのとばりのためにアカシヤ材の柱五つを造り、これを金でおおい、その鉤を金で造り、またその柱のために青銅の座五つを鑄て造らなければならぬ。

第二十七章

「あなたはまたアカシヤ材で祭壇を造

らなければならぬ。長さ五キュビト、幅五キュビトの四角で、高さは三キュビトである。二 その四すみの上にその一部としてその角を造り、青銅で祭壇をおおわなければならぬ。三 また灰を取るつば、十能、鉢、肉叉、皿を造り、その器はみな青銅で造らなければならぬ。四 また祭壇のために青銅の網細工の格子を造り、その四すみで、網の上に青銅の環を四つ取り付けなければならぬ。五 その網を祭壇の出張りの下に取り付け、これを祭壇の高さの半ばに達するようにしなければならぬ。六 また祭壇のために、さおを造らなければならぬ。すなわちアカシヤ材で、さおを造り、青銅で、これをおおわなければならぬ。七 そのさおを環に通し、さおを祭壇の両側にして、これがかつがなければならぬ。八 祭壇は板で空洞に造り、山で示されたように、これを造ら

なければならぬ。

九 あなたはまた幕屋の庭を造り、南側では庭のために

長さ百キュビトの亜麻の撚糸のあげばりを設け、その一方に当てなければならぬ。一〇 その柱は二十、その柱の二十の座は青銅にし、その柱の鉤と桁とは銀にしなければならぬ。二 また同じく北側のために、長さ百キュビトのあげばりを設けなければならぬ。その柱は二十、その柱の二十の座は青銅にし、その柱の鉤と桁とは銀にしなければならぬ。三 また庭の西側の幅のために五十キュビトのあげばりを設けなければならぬ。その柱は十、その座も十。四 また東側でも庭の幅を五十キュビトにしなければならぬ。五 そしてその一方に十五キュビトのあげばりを設けなければならぬ。その柱は三つ、その座も三つ。六 また他の一方にも十五キュビトのあげばりを設けなければならぬ。その柱は三つ、その座も三つ。七 庭の門のために青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸で、色とりどりに織った長さ二十キュビトのとばりを設けなければならぬ。その柱は四つ、その座も四つ。八 庭の周囲の柱はみな銀の桁でつなぎ、その鉤は銀、その座は青銅にしなければならぬ。九 庭の長さは百キュビト、その幅は五十キュビト、その高さは五キュビトで、亜麻の撚糸の布を掛けめぐらし、その座を青銅にしなければならぬ。一〇 すべての幕屋に用いるもろもろの器、およびそのすべての釘、また庭のすべての釘は青銅で造ら

なければならぬ。

二〇あなたはまたイスラエルの人々に命じて、オリブをつぶして採った純粹の油を、ともし火のために持つてこさせ、絶えずともし火をともしなければならぬ。三アロンとその子たちとは、会見の幕屋の中のあかしの箱の前にある垂幕の外で、夕から朝まで主の前に、そのともし火を整えなければならぬ。これはイスラエルの人々の守るべき世々変らざる定めでなければならぬ。

第二十八章 「またイスラエルの人々のうちから、あ

なたの兄弟アロンとその子たち、すなわちアロンとアロンの子ナダブ、アビウ、エレアザル、イタマルとをあなたのもとにこさせ、祭司としてわたしに仕えさせ、二またあなたの兄弟アロンのために聖なる衣服を作つて、彼に榮えと麗しきをもたせなければならぬ。三あなたはすべて心に知恵ある者、すなわち、わたしが知恵の靈を満たした者たちに語つて、アロンの衣服を作らせ、アロンを聖別し、祭司としてわたしに仕えさせなければならぬ。四彼らの作るべき衣服は次のとおりである。すなわち胸当て、エポデ、衣、市松模様の服、帽子、帯である。彼らはあなたの兄弟アロンとその子たちとのために聖なる衣服を作り、祭司としてわたしに仕えさせなければならぬ。

五彼らは金糸、青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸を受け取らなければならぬ。六そして彼らは金糸、青糸、紫糸、

緋糸、亜麻の撚糸を用い、巧みなわざをもつてエポデを作らなければならぬ。七これに二つの肩ひもを付け、その両端を、これに付けなければならぬ。八エポデの上で、これをつかぬる帯は、同じきれてエポデの作りのように、金糸、青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸で作らなければならぬ。九あなたは二つの縞めのうを取つて、その上にイスラエルの子たちの名を刻まなければならぬ。二すなわち、その名六つを一つの石に、残りの名六つを他の石に、彼らの生れた順に刻まなければならぬ。三宝石に彫刻する人が印を彫刻するように、イスラエルの子たちの名をその二つの石に刻み、それを金の編細工にはめ、三この二つの石をエポデの肩ひもにつけて、イスラエルの子たちの記念の石としなければならぬ。こうしてアロンは主の前でその両肩に彼らの名を負うて記念としなければならぬ。四あなたはまた金の編細工を作らなければならぬ。五そして二つの純金の鎖を、ひも細工にねじて作り、そのひもの鎖をかの編細工につけなければならぬ。

六あなたはまたさばきの胸当てを巧みなわざをもつて作り、これをエポデの作りのように作らなければならぬ。すなわち金糸、青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸で、これを作らなければならぬ。七これは二つに折つて四角にし、長さは一指当り、幅も一指当りとしなければならぬ。八またその中に宝石を四列にはめ込まなければなら

ない。すなわち紅玉髓、貴かんらん石、水晶の列を第一列とし、二第二列は、ざくろ石、るり、赤縞めのう。三第三列は黄水晶、めのう、紫水晶。四第四列は黄碧玉、縞めのう、碧玉であつて、これらを金の編細工の中にはめ込まなければならぬ。五その宝石はイスラエルの子らの名に従ひ、その名とひとしく十二とし、おのおの印の彫刻のように十二の部族のためにその名を刻まなければならぬ。六またひも細工にねじた純金の鎖を胸当につけなければならぬ。七また、胸当のために金の環二つを作り、胸当の両端にその二つの環をつけ、八かの二筋の金のひもを胸当の端の二つの環につけなければならぬ。九ただし、その二筋のひもの他の両端をかの二つの編細工につけ、エポデの肩ひもにつけて、前にくるようにしなければならぬ。一〇あなたはまた二つの金の環を作つて、これを胸当の両端につけなければならぬ。すなわちエポデに接する内側の縁にこれをつけなければならぬ。一十一また二つの金の環を作つて、これをエポデの二つの肩ひもの下の部分につけ、前の方で、そのつなぎ目に近く、エポデの帯の上の方にあるようにしなければならぬ。一二胸当は青ひもをもつて、その環をエポデの環に結びつけ、エポデの帯の上の方にあるようにしなければならぬ。こうして胸当がエポデから離れないようにしなければならぬ。一三アロンが聖所にはいる時は、さばきの胸当にあるイスラエルの子たちの名をその胸に

置き、主の前に常に覚えとしなければならぬ。一四あなたはさばきの胸当にウリムとトンミムを入れて、アロンが主の前にいたる時、その胸の上にあらうようにしなければならぬ。こうしてアロンは主の前に常にイスラエルの子たちのさばきを、その胸に置かなければならぬ。一五あなたはまた、エポデに属する上服をすべて青地で作らなければならぬ。一六頭を通す口を、そのまん中に設け、その口の周囲には、よろいのえりのように織物の縁をつけて、ほころびないようにし、一七そのすそには青糸、紫糸、緋糸で、ざくろを作り、そのすその周囲につけ、また周囲に金の鈴をざくろの間々につけなければならぬ。一八すなわち金の鈴にざくろ、また金の鈴にざくろと、上服のすその周囲につけなければならぬ。一九アロンは務の時、これを着なければならぬ。彼が聖所にはいつて主の前にいたる時、また出る時、その音が聞えて、彼は死を免れるであらう。二〇あなたはまた純金の板を造り、印の彫刻のように、その上に『主に聖なる者』と刻み、二一これを青ひもで帽子に付け、それが帽子の前の方に来るようになければならぬ。二二これはアロンの額にあり、そしてアロンはイスラエルの人々がささげる聖なる物、すなわち彼らのものもろの聖なる供え物についての罪の責めを負うであらう。これは主の前にそれらの受けいられるため、常にアロンの額になければならぬ。

三九 あなたは亜麻糸で市松模様(いちまつもよう)に下服(したふく)を織(お)り、亜麻布(あまふ)で、ずきんを作り、また、帯(おび)を色(いろ)とりどりに織(お)って作(つく)らなければならぬ。

四〇 あなたはまたアロンの子(こ)たちのために下服(したふく)を作り、彼(かれ)らのために帯(おび)を作り、彼(かれ)らのために、ずきんを作(つく)って、彼(かれ)らに榮(さか)えと麗(うるわ)しきをもたせなければならぬ。四一 そしてあなたはこれをあなたの兄弟(きょうだい)アロンおよび彼(かれ)と共にいるその子(こ)たちに着(き)せ、彼(かれ)らに油(あぶら)を注(そそ)ぎ、彼(かれ)らを職(しやく)に任(にん)じ、彼(かれ)らを聖別(せいべつ)し、祭司(さいし)として、わたしに仕(つか)えさせなければならぬ。四二 また、彼(かれ)らのために、その隠(かく)し所(ところ)をおおう亜麻布(あまふ)のしたばきを作り、腰(こし)からも届(とど)くようにしなければならぬ。四三 アロンとその子(こ)たちは会見(かいけん)の幕屋(まくや)に、ある時は聖所(せいじよ)で務(つとめ)をするために祭壇(さいだん)に近(ちか)づく時に、これを着(き)なければならぬ。そうすれば、彼(かれ)らは罪(つみ)を得(え)て死ぬ(しぬ)ことはないであらう。これは彼(かれ)と彼の後(のち)の子孫(しそん)のための永久(えいきゆう)の定め(さだめ)でなければならぬ。

第二九章 一 あなたは彼(かれ)らを聖別(せいべつ)し、祭司(さいし)としてわたしに仕(つか)えさせるために、次の事(こと)を彼(かれ)らにしなければならぬ。すなわち若い雄牛(おうし)一頭(いっとう)と、きずのない雄羊(おひつじ)二頭(にとう)とを取り、ニまた種入(たねい)れぬパンと、油(あぶら)を混(ま)ぜた種入(たねい)れぬ菓子(かし)と、油(あぶら)を塗(ぬ)った種入(たねい)れぬせんべいとを取りなさい。これらは小麦粉(こむぎこ)で作(つく)らなければならぬ。三 そしてこれを一つのかごに入れ、そのかごに入れたまま、かの一頭(いっとう)の雄牛(おうし)および二頭(にとう)の雄羊(おひつじ)と共に携(たず)えてこなければならぬ。

四四 あなたはまたアロンとその子(こ)たちを会見(かいけん)の幕屋(まくや)の入口(いりぐち)に連れてきて、水(みづ)で彼(かれ)らを洗(あら)い清(きよ)め、五 また衣服(いふく)を取り、下服(したふく)とエポデに属(ぞく)する上服(うふく)と、エポデと胸当(むねあて)とをアロンに着(き)せ、エポデの帯(おび)を締めさせなければならぬ。六 そして彼(かれ)の頭(あたま)に帽子(ぼうし)をかぶらせ、その帽子(ぼうし)の上(うへ)にかの聖なる冠(かんむり)をいただかせ、七 注(そそ)ぎ油(あぶら)を取(と)って彼(かれ)の頭(あたま)にかけ、彼(かれ)に油(あぶら)注(そそ)ぎをしなければならぬ。八 あなたはまた彼(かれ)の子(こ)たちを連れてきて下服(したふく)を着(き)せ、九 彼(かれ)ら、すなわちアロンとその子(こ)たちに帯(おび)を締めさせ、ずきんをかぶらせなければならぬ。祭司(さいし)の職(しやく)は永久(えいきゆう)の定め(さだめ)によって彼(かれ)らに帰(かへ)するであらう。あなたはこうして、アロンとその子(こ)たちを職(しやく)に任(にん)じなければならぬ。

一〇 あなたは会見(かいけん)の幕屋(まくや)の前に雄牛(おうし)を引(ひ)いてきて、アロンとその子(こ)たちは、その雄牛(おうし)の頭(あたま)に手(て)を置(お)かなければならぬ。二 そして会見(かいけん)の幕屋(まくや)の入口(いりぐち)で、主(しゅ)の前にその雄牛(おうし)をほふり、三 その雄牛(おうし)の血(ち)を取り、指(ゆび)をもって、これを祭壇(さいだん)の角(つの)につけ、その残(のこ)りの血(ち)を祭壇(さいだん)の基(もと)に注(そそ)ぎかけなさい。四 また、その内臓(ないぞう)をおおうすべての脂肪(しぼう)と肝臓(かんぞう)の小葉(しょうよう)と、二つの腎臓(じんぞう)と、その上の脂肪(しぼう)とを取(と)って、これを祭壇(さいだん)の上(うへ)で焼(や)かなければならぬ。五 ただし、その雄牛(おうし)の肉(にく)と皮(かわ)と汚物(おつづ)とは、宿営(しゆくえい)の外(そと)で火(ひ)で焼(や)き捨(す)てなければならぬ。これは罪祭(ざいさい)である。

一五 あなたはまた、か(か)の雄羊(おひつじ)の一頭(いっとう)を取り、そしてアロンとその子(こ)たちは、その雄羊(おひつじ)の頭(あたま)に手(て)を置(お)かなければならぬ。

らない。一六あなたはその雄羊をほふり、その血を取つて、祭壇の四つの側面に注ぎかけなければならぬ。一七またその雄羊を切り裂き、その内臓と、その足とを洗つて、これをその肉の切れ、および頭と共に置き、一八その雄羊をみな祭壇の上で焼かなければならぬ。これは主にささげる燔祭である。すなわち、これは香ばしいかおりであつて、主にささげる火祭である。

一九あなたはまた雄羊の他の一頭を取り、アロンとその子たちは、その雄羊の頭に手を置かなければならぬ。二〇そしてあなたはその雄羊をほふり、その血を取つて、アロンの右の耳たぶと、その子たちの右の耳たぶにつけ、また彼らの右の手の親指と、右の足の親指につけ、その残りの血を祭壇の四つの側面に注ぎかけなければならぬ。二一また祭壇の上の血および注ぎ油を取つて、アロンとその衣服、およびその子たちと、その子たちの衣服とに注がなければならぬ。彼とその衣服、およびその子らと、その衣服とは聖別されるであらう。

二二あなたはまた、その雄羊の脂肪、脂尾、内臓をおおう脂肪、肝臓の小葉、二つの腎臓、その上の脂肪、および右のものを取らなければならぬ。これは任職の雄羊である。二三また主の前にある種入れぬパンのかごの中からパン一個と、油菓子一個と、せんべい一個とを取り、二四これをみなアロンの手と、その子たちの手に置き、これを主の前に揺り動かして、揺祭としなければならぬ。

二五そしてあなたはこれを彼らの手から受け取り、燔祭に加えて祭壇の上で焼き、主の前に香ばしいかおりとしなければならぬ。これは主にささげる火祭である。

二六あなたはまた、アロンの任職の雄羊の胸を取り、これを主の前に揺り動かして、揺祭としなければならぬ。これはあなたの受ける分となるであらう。二七あなたはアロンとその子たちの任職の雄羊の胸ともも、すなわち揺り動かした揺祭の胸と、ささげたをもとを聖別しなければならぬ。二八これはイスラエルの人々から永久に、アロンとその子たちの受くべきささげ物であつて、イスラエルの人々の酬恩祭の犠牲の中から受くべきもの、すなわち主にささげるささげ物である。

二九アロンの聖なる衣服は彼の後の子孫に帰すべきである。彼らはこれを着て、油注がれ、職に任ぜられなければならない。三〇その子たちのうち、彼に代つて祭司となり、聖所で仕えるために会見の幕屋にはいる者は、七日の間これを着なければならぬ。

三一あなたは任職の雄羊を取り、聖なる場所でその肉を煮なければならぬ。三二アロンとその子たちは会見の幕屋の入口で、その雄羊の肉と、かごの中のパンとを食べなければならぬ。三三彼らを職に任じ、聖別するため、あがないに用いたこれらのものを、彼らは食べなければならぬ。他の人はこれを食べてはならない。これは聖なる物だからである。三四もし任職の肉、あるいはパンのう

ち、朝まで残るものがあれば、その残りは火で焼かなければならない。これは聖なる物だから食べてはならない。

三三 あなたはわたしがすべて命じるように、アロンとその子たちにしなければならぬ。すなわち彼らのために七日のあいだ、任職の式を行わなければならない。三六 あなたは毎日、あがないのために、罪祭の雄牛一頭をささげなければならぬ。また祭壇のために、あがないをなす時、そのために罪祭をささげ、また、これに油を注いで聖別しなさい。三七 あなたは七日の間、祭壇のために、あがないをして、これを聖別しなければならぬ。こうして祭壇は、いと聖なる物となり、すべて祭壇に触れる者は聖となるであらう。

三八 あなたが祭壇の上にささぐべき物は次のとおりである。すなわち当歳の小羊二頭を毎日絶やすことなくささげなければならぬ。三九 その一頭の小羊は朝にこれをささげ、他の一頭の小羊は夕にこれをささげなければならぬ。四〇 一頭の小羊には、つぶして取った油一ヒンの四分の一をまぜた麦粉十分の一エパを添え、また灌祭として、ぶどう酒一ヒンの四分の一を添えなければならぬ。四一 他の一頭の小羊は夕にこれをささげ、朝の素祭および灌祭と同じものをこれに添えてささげ、香ばしいかおりのために主にささげる火祭としなければならぬ。四二 これはあなたがたが代々会見の幕屋の入口で、主の前に絶やすことなく、ささぐべき燔祭である。わたしはその所

であなたに会い、あなたと語るであらう。四三 また、その所でわたしはイスラエルの人々に会うであらう。幕屋はわたしの栄光によって聖別されるであらう。四四 わたしは会見の幕屋と祭壇とを聖別するであらう。またアロンとその子たちを聖別し、祭司としてわたしに仕えさせるであらう。四五 わたしはイスラエルの人々のうちに住んで、彼らの神となるであらう。四六 わたしが彼らのうちに住むために、彼らをエジプトの国から導き出した彼らの神主であることを彼らは知るであらう。わたしは彼らの神、主である。

第三〇章 一あなたはまた香をたく祭壇を造らなければならぬ。アカシヤ材でこれを造り、二長さ一キュビト、幅一キュビトの四角にし、高さ二キュビトで、これにその一部として角をつけなければならぬ。三その頂、その四つの側面、およびその角を純金でおおい、その周囲に金の飾り縁を造り、四また、その両側に、飾り縁の下に金の環二つをこれのために造らなければならぬ。すなわち、その二つの側にこれを造らなければならぬ。これはそれをかつぐさおを通すところである。五そのさおはアカシヤ材で造り、金でおおわなければならない。六あなたはそれを、あかしの箱の前にある垂幕の前に置いて、わたしがあなたと会うあかしの箱の上にある贖罪所に向かわせなければならぬ。七アロンはその上で香ばしい薫香をたかなければならぬ。朝ごとに、

としびを整える時、これをたかなければならない。ハアロンはまた夕べにとしびをとす時にも、これをたかなければならない。これは主の前にあなたが代々に絶やすことなく、ささぐべき薫香である。九あなたがたはその上で異なる香をささげてはならない。燔祭をも素祭をもその上でささげてはならない。また、その上に灌祭を注いではならない。一〇アロンは年に一度その角に血をつけてあがないをしなければならぬ。すなわち、あがないの罪祭の血をもって代々にわたり、年に一度これがために、あがないをしなければならぬ。これは主に最も聖なるものである」。

二主はモーセに言われた、三「あなたがイスラエルの人々の数の総計をとるに当り、おのその数えられる時、その命のあがないを主にささげなければならぬ。これは数えられる時、彼らのうちに災の起らないためである。四すべて数に入る者は聖所のシケルで、半シケルを払わなければならぬ。一シケルは二十ゲラであつて、おのその半シケルを主にささげ物としなければならぬ。五すべて数に入る二十歳以上の者は、主にささげ物をしなければならぬ。六あなたがたの命をあがなうために、主にささげ物をする時、富める者も半シケルより多く出してはならず、貧しい者もそれより少なく出してはならない。七あなたはイスラエルの人人々から、あがないの銀を取って、これを会見の幕屋の用に当てなければ

ならない。これは主の前にイスラエルの人人々のため記念となつて、あなたがたの命をあがなうであらう」。

一七主はモーセに言われた、一八「あなたはまた洗うために洗盤と、その台を青銅で造り、それを会見の幕屋と祭壇との間に置いて、その中に水を入れ、一九アロンとその子たちは、それで手と足を洗わなければならぬ。二〇彼らは会見の幕屋にはいる時、水で洗つて、死なないようにしなければならぬ。また祭壇に近づいて、その務をなし、火祭を主にささげる時にも、そうしなければならぬ。二三すなわち、その手、その足を洗つて、死なないようにしなければならぬ。これは彼とその子孫の代々にわたる永久の定めでなければならぬ」。

二三主はまたモーセに言われた、二四「あなたはまた最も良い香料を取りなさい。すなわち液体の没薬五百シケル、香ばしい肉桂をその半ば、すなわち二百五十シケル、におい菖蒲二百五十シケル、二五桂枝五百シケルを聖所のシケルで取り、また、オリブの油一ヒンを取りなさい。二六あなたはこれを聖なる注ぎ油、すなわち香油を造るわざにしたいが、い、まぜ合わせて、におい油に造らなければならぬ。これは聖なる注ぎ油である。二七あなたはこの油を会見の幕屋と、あかしの箱とに注ぎ、二八機と、そのもの器、燭台と、そのもの器、香の祭壇、二九燔祭の祭壇と、そのもの器、洗盤と、その台とに油を注ぎ、三〇これらをきよめて最も聖なる物としなければ

ばならない。すべてこれに触れる者は聖となるであろう。三〇あなたはアロンとその子たちに油を注いで、彼らを聖別し、祭司としてわたしに仕えさせなければならぬ。三一そしてあなたはイスラエルの人々に言わなければならない、『これはあなたがたの代々にわたる、わたしの聖なる注ぎ油であつて、三二常の人の身にこれを注いではならない。またこの割合をもつて、これと等しいものを造つてはならない。これは聖なるものであるから、あなたがたにとつても聖なる物でなければならぬ。三三すべてこれと等しい物を造る者、あるいはこれを祭司以外の人につける者は、民のうちから断たれるであらう』。

三四主はまた、モーセに言われた、『あなたは香料、すなわち蘇合香、シケレテ香、楓子香、純粹の乳香の香料を取りなさい。おのおの同じ量でなければならぬ。三五あなたはこれをもつて香、すなわち香料をつくるわざにしたがつて薫香を造り、塩を加え、純にして聖なる物としなさい。三六また、その幾ぶんを細かに碎き、わたしがあなたと会う会見の幕屋にある、あかしの箱の前にこれを供えなければならぬ。これはあなたがたに最も聖なるものである。三七あなたが造る香の同じ割合をもつて、それを自分のために造つてはならない。これはあなたにとつて主に聖なるものでなければならぬ。三八すべてこれと等しいものを造つて、これをかぐ者は民のうちから断たれるであらう』。

第三一章

一主はモーセに言われた、二見よ、わたしはユダの部族に属するホルの子なるウリの子ベザレを名ざして召し、三これに神の靈を満たして、知恵と悟りと知識と諸種の工作に長ぜしめ、四工夫を凝らして金、銀、青銅の細工をさせ、五また寶石を切りはめ、木を彫刻するなど、諸種の工作をさせるであらう。六見よ、わたしはまたダン部族に属するアヒサマクの子アホリを彼と共に任せ、そしてすべて賢い者の心に知恵を授け、わたしがあなたがたに命じたものを、ことごとく彼らに造らせるであらう。七すなわち会見の幕屋、あかしの箱、その上にある贖罪所、幕屋のもろもろの器、八机とその器、純金の燭台と、そのもろもろの器、九香の祭壇、燔祭の祭壇とそのもろもろの器、洗盤とその台、一〇編物の服、すなわち祭司の務をするための祭司アロンの聖なる服、およびその子たちの服、一一注ぎ油、聖所のための香ばしい香などを、すべてわたしがあなたがたに命じたように造らせるであらう』。

一二主はまたモーセに言われた、一三あなたはイスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならぬ。これはわたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしであつて、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、知らせるためのものである。一四それゆえ、あなたがたは安息日を守らなければならぬ。これはあなたがたに聖なる日である。すべ

てこれを汚す者は必ず殺され、すべてこの日に仕事をす
る者は、民のうちから断たれるであらう。五六日のあい
だは仕事をしなさい。七日目は全き休みの安息日で、主
のために聖である。すべて安息日に仕事をする者は必ず
殺されるであらう。二六ゆえに、イスラエルの人々は安息
日を覚え、永遠の契約として、代々安息日を守らなけれ
ばならない。二七これは永遠にわたしとイスラエルの人々
との間のしるしである。それは主が六日のあいだに天地
を造り、七日目に休み、かつ、いこわれたからである。』
主はシナイ山でモーセに語り終えられたとき、あか
しの板二枚、すなわち神が指をもって書かれた石の板を
モーセに授けられた。

第三二章 一民はモーセが山を下ることのおそい
のを見て、アロンのもとに集まって彼に言った、「さあ、
わたしたちに先立って行く神を、わたしたちのために
造ってください。わたしたちをエジプトの国から導きの
ぼった人、あのモーセはどうなったのかわからないから
です」。ニアロンは彼らに言った、「あなたがたの妻、むす
こ、娘らの金の耳輪をはずしてわたしに持ってきたさ
い」。そこで民は皆その金の耳輪をはずしてアロンのも
とに持ってきた。四アロンがこれを彼らの手から受け取
り、工具で型を造り、鑄て子牛としたので、彼らは言っ
た、「イスラエルよ、これはあなたをエジプトの国から
導きのぼったあなたの神である」。五アロンはこれを見て、

その前に祭壇を築いた。そしてアロンは布告して言った、
「あすは主の祭である」。六そこで人々はあくる朝早く起
きて燔祭をささげ、酬恩祭を供えた。民は座して食い飲
みし、立って戯れた。

七主はモーセに言われた、「急いで下りなさい。あなた
がエジプトの国から導きのぼったあなたの民は悪いこと
をした。八彼らは早くもわたしが命じた道を離れ、自分の
ために鑄物の子牛を造り、これを拝み、これに犠牲をさ
さげて、『イスラエルよ、これはあなたをエジプトの国か
ら導きのぼったあなたの神である』と言っている」。九主
はまたモーセに言われた、「わたしはこの民を見た。これ
はかたくなな民である。一〇それで、わたしをとめるな。
わたしの怒りは彼らにむかって燃え、彼らを滅ぼしつく
すであらう。しかし、わたしはあなたを大いなる国民と
するであらう」。

二モーセはその神、主をなだめて言った、「主よ、大い
なる力と強き手をもって、エジプトの国から導き出され
たあなたの民にむかって、なぜあなたの怒りが燃えるの
でしようか。三どうしてエジプトびとに『彼は悪意を
もって彼らを導き出し、彼らを山地で殺し、地の面から
断ち滅ぼすのだ』と言わせてよいでしょうか。どうかあ
なたの激しい怒りをやめ、あなたの民に下そうとされる
この災を思い直し、四あなたのしもべアブラハム、イサ
ク、イスラエルに、あなたが御自身をさして誓い、『わた

しは天の星のように、あなたがたの子孫を増し、わたしが約束したこの地を皆あなたがたの子孫に与えて、長くこれを所有させるであらう」と彼らに仰せられたことを覚えてください。二四それで、主はその民に下すと言われた災について思い直された。

二五 モーセは身を転じて山を下った。彼の手には、かの二枚のあかしの板があった。板はその両面に文字があった。すなわち、この面にも、かの面にも文字があった。

二六 その板は神の作、その文字は神の文字であって、板に彫ったものである。二七 ヨシユアは民の呼ばわる声を聞いて、モーセに言った、「宿営の中に戦いの声がします」。

二八 しかし、モーセは言った、「勝どきの声でなく、敗北の叫び声でもない。わたしの聞くのは歌の声である」。

二九 モーセが宿営に近づくと、子牛と踊りとを見たので、彼は怒りに燃え、手からかの板を投げうち、これを山のふもとで砕いた。三〇 また彼らが造った子牛を取って火に焼き、こなごなに砕き、これを水の上にまいて、イスラエルの人々に飲ませた。

三一 モーセはアロンに言った、「この民があなたに何をしたので、あなたは彼らに大いなる罪を犯させたのですか」。三二 アロンは言った、「わが主よ、激しく怒らないでください。この民の悪いのは、あなたがごぞんじです。三三 彼らはわたしに言いました、『わたしたちに先立って行く神を、わたしたちのために造ってください。わた

したちをエジプトの国から導きのぼった人、あのモーセは、どうなったのかわからないからです』。三四 そこでわたしは『だれでも、金を持ってゐる者は、それを取りはずしなさい』と彼らに言いました。彼らがそれをわたしに渡したので、わたしがこれを火に投げ入れると、この子牛が出てきたのです」。

三五 モーセは民がほしのままにふるまったのを見た。アロンは彼らがほしのままにふるまうに任せ、敵の中に物笑いとなったからである。三六 モーセは宿営の門に立って言った、「すべて主につく者はわたしのもとにきなさい」。レビの子たちはみな彼のもとに集まった。三七 そこでモーセは彼らに言った、「イスラエルの神、主はこう言われる、『あなたがたは、おのおの腰につるぎを帯び、宿営の中を門から門へ行き巡って、おのおのその兄弟、その友、その隣人を殺せ』。三八 レビの子たちはモーセの言葉どおりにしたので、その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた。三九 そこで、モーセは言った、『あなたがたは、おのおのその子、その兄弟に逆らって、きょう、主に身をささげた。それで主は、きょう、あなたがたに祝福を与えられるであらう』」。

四〇 あくる日、モーセは民に言った、『あなたがたは大いなる罪を犯した。それで今、わたしは主のもとに上って行く。あなたがたの罪を償うことが、できるかも知れない』。四一 モーセは主のもとに帰って、そして言った、

「ああ、この民は大いなる罪を犯し、自分のために金の神を造りました。三三今もしあなたが、彼らの罪をゆるされますならば——。しかし、もしかたなければ、どうぞあなたが書きしるされたふみから、わたしの名を消し去ってください」。主はモーセに言われた、「すべてわたしに罪を犯した者は、これをわたしのふみから消し去るであろう。三三しかし、今あなたは行って、わたしがあなたに告げたとおりに民を導きなさい。見よ、わたしの使はあなたに先立って行くであろう。ただし刑罰の日に、わたしは彼らの罪を罰するであろう」。

三三そして主は民を撃たれた。彼らが子牛を造ったからである。それはアロンが造ったのである。

第三章 一さて、主はモーセに言われた、「あなたと、あなたがエジプトの国から導きのぼった民とは、こを立ってわたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓って、『これをあなたの子孫に与える』と言った地にのぼりなさい。二わたしはひとりの使をつかわしてあなたに先立たせ、カナンびと、アモリびと、ヘテびと、ペリジびと、ヒビびと、エブスびとを追い払うであろう。三あなたがたは乳と蜜の流れる地にのぼりなさい。しかし、あなたがたは、かたくなな民であるから、わたしが道であなたがたを滅ぼすことのないように、あなたがたのうちにあつて一緒ににはのぼらないであろう」。

四民はこの悪い知らせを聞いて憂い、ひとりもその飾り

を身に着ける者はなかった。五主はモーセに言われた、「イスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたは、かたくなな民である。もしわたしが一刻でも、あなたがたのうちにあつて、一緒にのぼって行くならば、あなたがたを滅ぼすであろう。ゆえに、今、あなたがたの飾りを身から取り去りなさい。そうすればわたしはあなたがたになすべきことを知るであろう』。六それで、イスラエルの人々はホレブ山以来その飾りを取り除いていた。

七モーセは幕屋を取って、これを宿営の外に、宿営を離れて張り、これを会見の幕屋と名づけた。すべて主に伺い事のある者は出て、宿営の外にある会見の幕屋に行った。八モーセが出て、幕屋に行く時には、民はみな立ちあがり、モーセが幕屋にはいるまで、おのおのその天幕の入口に立って彼を見送った。九モーセが幕屋にはいると、雲の柱が下って幕屋の入口に立った。そして主はモーセと語られた。一〇民はみな幕屋の入口に雲の柱が立つのを見ると、立っておのおの自分の天幕の入口で礼拝した。二人がその友と語るように、主はモーセと顔を合わせて語られた。こうしてモーセは宿営に帰ったが、その従者なる若者、ヌンの子ヨシユアは幕屋を離れなかった。

三モーセは主に言った、「ごらんください。あなたは『この民を導きのぼれ』とわたしに言いながら、わたしと一緒につかかわされる者を知らせてくださいません。しかも、あなたはかつて『わたしはお前を選んだ。お前はま

たわたしの前に恵みを得た』と仰せになりました。二三それで今、わたしがもし、あなたの前に恵みを得ますならば、どうか、あなたの道を示し、あなたをわたしに知らせ、あなたの前に恵みを得させてください。また、この国民があなたの民であることを覚えてください。二四主は言われた「わたし自身が一緒に行くであろう。そしてあなたに安息を与えるであろう。二五モーセは主に言った「もしあなた自身が一緒に行かれなければ、わたしたちをここからのぼらせないでください。二六わたしとあなたの民とが、あなたの前に恵みを得ることは、何によつて知られましょうか。それはあなたがわたしたちと一緒に行かれて、わたしとあなたの民とが、地の面にある諸民と異なるものになるからではありませんか」。

二七主はモーセに言われた「あなたはわたしの前に恵みを得、またわたしは名をもつてあなたを知るから、あなたの言つたこの事をもするであろう。二八モーセは言つた、「どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください。二九主は言われた、「わたしはわたしのものもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう。わたしは恵もうとする者を恵み、あわれもうとする者をあわれむ。三〇また言われた、「しかし、あなたはわたしの顔を見ることはできない。わたしを見て、なお生きてゐる人はないからである。三一そして主は言われた、「見よ、わたしのかたわらに一つの所がある。あなたは岩の

上に立ちなさい。三二わたしの栄光がそこを通り過ぎるとき、わたしはあなたを岩の裂け目に入れて、わたしが通り過ぎるまで、手であなたをおおうであろう。三三そしてわたしが手をのけるととき、あなたはわたしのうしろを見るが、わたしの顔は見えないであろう」。

第三四章 一主はモーセに言われた、「あなたは前のような石の板二枚を、切つて造りなさい。わたしはあなたが砕いた初めの板にあつた言葉を、その板に書くであろう。二あなたは朝までに備えをし、朝のうちにシナイ山に登つて、山の頂でわたしの前に立ちなさい。三だれもあなたと共に登つてはならない。また、だれも山の中にいてはならない。また山の前で羊や牛を飼つていてはならない。四そこでモーセは前のような石の板二枚を、切つて造り、朝早く起きて、主が彼に命じられたようにシナイ山に登つた。彼はその手に石の板二枚をとつた。五ときに主は雲の中にあつて下り、彼と共にそこに立つて主の名を宣べられた。六主は彼の前を過ぎて宣べられた。「主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、七いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者、しかし、罰すべき者をば決してゆるさず、父の罪を子に報い、子の子に報いて、三、四代におよぼす者。八モーセは急ぎ地に伏して拝し、九そして言つた、「ああ主よ、わたしがもし、あなたの前に恵みを得ますならば、かたくなな民

ですけれども、どうか主がわたしたちのうちにあって一緒に行ってください。そしてわたしたちの悪と罪とをゆるし、わたしたちをあなたのものとしてください。」

主は言われた、「見よ、わたしは契約を結ぶ。わたしは地のいずこにも、いかなる民のうちに、いまだ行われたことのない不思議を、あなたのすべての民の前に行うであろう。あなたが共に住む民はみな、主のわざを見るであろう。わたしがあなたのためになそうとすることは、恐るべきものだからである。」

二 わたしが、きょう、あなたに命じることを守りなさい。見よ、わたしはアモリびと、カナンびと、ヘテびと、ペリジびと、ヒビびと、エブスびとを、あなたの前から追い払うであろう。三 あなたが行く国に住んでいる者と、契約を結ばないように、気をつけなければならぬ。

い。おそらく彼らはあなたのうちにあって、わなとなるであろう。二 三 むしろあなたがたは、彼らの祭壇を倒し、石の柱を砕き、アシラ像を切り倒さなければならぬ。

四 あなたは他の神を拝んではならない。主はその名を『ねたみ』と言つて、ねたむ神だからである。二五 おそら

くあなたはその国に住む者と契約を結び、彼らの神々を慕つて姦淫を行い、その神々に犠牲をささげ、招かれて彼らの犠牲を食べ、二六 またその娘たちを、あなたのむすこたちにめとり、その娘たちが自分たちの神々を慕つて姦淫を行い、また、あなたのむすこたちをして、彼らの

神々を慕わせ、姦淫を行わせるに至るであろう。二七 あなたは自分のために鑄物の神々を造つてはならない。

一八 あなたは種入れぬパンの祭を守らなければならぬ。すなわち、わたしがあなたに命じたように、アビブの月の定めの際に、七日のあいだ、種入れぬパンを食べなければならぬ。あなたがアビブの月にエジプトを出たからである。一九 すべて初めに生れる者は、わたしのものである。すべてあなたの家畜のういこの雄は、牛も羊もそうである。二〇 ただし、ろばのういごは小羊であがなわなければならぬ。もしあがなわれないならば、その首を折らなければならぬ。あなたのむすこのうちのういごは、みなあがなわなければならぬ。むなし手でわたしの前に出てはならない。

二一 あなたは六日のあいだ働き、七日目には休まなければならぬ。耕し時にも、刈入れ時にも休まなければならぬ。二二 あなたは七週の祭、すなわち小麦刈りの初穂の祭を行わなければならぬ。また年の終りに取り入れの祭を行わなければならぬ。二三 年に三度、男子はみな主なる神、イスラエルの神の前に出なければならぬ。二四 わたしは国々の民をあなたの前から追い払つて、あなたの境を広くするであろう。あなたが年に三度のぼつて、あなたの神、主の前に出る時には、だれもあなたの国を侵すことはないであろう。

二五 あなたは犠牲の血を、種を入れたパンと共に供えてはならない。また過越の祭の犠牲を、翌朝まで残して置いてはならない。二六 あなたの土地の初穂の最も良いものを、あなたの神、主の家に携えてこなければならぬ。二七 あなたは子やぎをその母の乳で煮てはならない。二八 主はモーセに言われた、「これらの言葉を書きしるしなさい。わたしはこれらの言葉に基いて、あなたにおよびイスラエルと契約を結んだからである」。二九 モーセは主と共に、四十日四十夜、そこにいたが、パンも食わず、水も飲まなかった。そして彼は契約の言葉、十戒を板の上に書いた。

三〇 モーセはそのあかしの板二枚を手にして、シナイ山から下ったが、その山を下ったとき、モーセは、さきに主と語ったゆえに、顔の皮が光を放っているのを知らなかった。三〇 アロンとイスラエルの人々とがみな、モーセを見ると、彼の顔の皮が光を放っていたので、彼らは恐れてこれに近づかなかった。三一 モーセは彼らを呼んだ。アロンと会衆のかしらたちとがみな、モーセのもとに帰ってきたので、モーセは彼らと語った。三二 その後、イスラエルの人々がみな近づいたので、モーセは主がシナイ山で彼に語られたことを、ことごとく彼らにさとした。三三 モーセは彼らと語り終えた時、顔をおいを顔に当てた。三三 しかしモーセは主の前行って主と語る時は、出るまで顔をおいを取り除いていた。そして出て来ると、その

命じられた事をイスラエルの人々に告げた。三五 イスラエルの人々はモーセの顔を見ると、モーセの顔の皮が光を放っていた。モーセは行って主と語るまで、また顔をおいを顔に当てた。

第三五章 モーセはイスラエルの人々の全会衆を集めて言った、「これは主が行えと命じられた言葉である。二六 日の間は仕事をしなさい。七日目はあなたがたの聖日で、主の全き休みの安息日であるから、この日に仕事をする者はだれでも殺されなければならない。三六 安息日にはあなたがたのすまいのどこでも火をたいてはならない」。

四〇 モーセはイスラエルの人々の全会衆に言った、「これは主が命じられたことである。四一 あなたがたの持ち物のうちから、主にささげる物を取りなさい。すべて、心から喜んでする者は、主にささげる物を持つてきなさい。すなわち金、銀、青銅、青糸、紫糸、緋糸、亜麻糸、やぎの毛糸。七あかね染めの雄羊の皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、ハともし油、注ぎ油と香ばしい薫香とのため香料、縞めのう、エポデと胸当てにはめる寶石。

四二 すべてあなたがたのうち、心に知恵ある者はきて、主の命じられたものをみな造りなさい。四三 すなわち幕屋、その天幕と、そのおおい、その鉤と、その柱、その横木、その柱と、その座、三箱と、そのさお、贖罪所、隔ての垂幕、三机と、そのさお、およびそのもろもろの器、供

えのパン、^{一四}また、ともしびのための燭台と、その器、
 ともしび皿と、ともし油、^{一五}香の祭壇と、そのさお、注
 ぎ油、香ばしい薫香、幕屋の入口のとばり、^{一六}燔祭の祭
 壇およびその青銅の網、そのさおと、そのもろもろの器、
 洗盤と、その台、^{一七}庭のあげばり、その柱とその座、庭
 の門のとばり、^{一八}幕屋の釘、庭の釘およびそのひも、^{一九}聖
 所における務のための編物の服、すなわち祭司の務をな
 すための祭司アロンの聖なる服およびその子たちの服」。
^{二〇}イスラエルの人々の全会衆はモーセの前を去り、
^{二一}すべて心に感じた者、すべて心から喜んでする者は、
 会見の幕屋の作業と、そのもろもろの奉仕と、聖なる服
 とのために、主にささげる物を携えてきた。^{二三}すなわち、
 すべて心から喜んでする男女は、鼻輪、耳輪、指輪、首
 飾り、およびすべての金の飾りを携えてきた。すべて金
 のささげ物を主にささげる者はそのようにした。^{二四}す
 べて青糸、紫糸、緋糸、亜麻糸、やぎの毛糸、あかね染
 めの雄羊の皮、じゅごんの皮を持っている者は、それを
 携えてきた。^{二五}すべて銀、青銅のささげ物をささげるこ
 とのできる者は、それを主にささげる物として携えてき
 た。また、すべて組立ての工事に用いるアカシヤ材を
 持っている者は、それを携えてきた。^{二六}また、すべて心
 に知恵ある女たちは、その手をもって紡ぎ、その紡いだ
 青糸、紫糸、緋糸、亜麻糸を携えてきた。^{二七}すべて知恵
 があつて、心に感じた女たちは、やぎの毛を紡いだ。^{二八}ま

た、かしらたちは縞めのう、およびエポデと胸当にはめ
 る寶石を携えてきた。^{二九}また、ともしびと、注ぎ油と、
 香ばしい薫香のための香料と、油とを携えてきた。^{三〇}こ
 のようにイスラエルの人々は自発のささげ物を主に携え
 てきた。すなわち主がモーセによつて、なせと命じられ
 たすべての工作のために、物を携えてこようと、心から
 喜んでする男女はみな、そのようにした。
^{三一}モーセはイスラエルの人々に言った、「見よ、主はユ
 ダの部族に属するホルの子なるウリの子ベザレルを名ざ
 して召し、^{三二}彼に神の霊を満たして、知恵と悟りと知識
 と諸種の工作に長ぜしめ、^{三三}工夫を凝らして金、銀、青
 銅の細工をさせ、^{三四}また寶石を切りはめ、木を彫刻する
 など、諸種の工作をさせ、^{三五}また人を教える力を、彼
 の心に授けられた。彼とダンの部族に属するアヒサマク
 の子アホリアブとが、それである。^{三六}主は彼らに知恵の
 心を満たして、^{三七}諸種の工作をさせられた。すなわち彫刻、
 浮き織および青糸、紫糸、緋糸、亜麻糸の縫取り、また
 機織など諸種の工作をさせ、工夫を凝らして巧みなわざ
 をさせられた。

第三十六章　　ベザレルとアホリアブおよびすべて
 心に知恵ある者、すなわち主が知恵と悟りとを授けて、
 聖所の組立ての諸種の工事を、いかになすかを知らせら
 れた者は、すべて主が命じられたようにしなければなら
 ない」。

二そこで、モーセはベザレルとアホリアブおよびすべて心に知恵ある者、すなわち、その心に主が知恵を授けられた者、またきて、その工事をなそうと心に望むすべての者を召し寄せた。三彼らは聖所の組立ての工事をするために、イスラエルの人々が携えてきたもろもろのささげ物を、モーセから受け取ったが、民はなおも朝ごとに、自発のささげ物を彼のもとに携えてきた。四そこで聖所のもろもろの工事をする賢い人々はみな、おのおのしていた工事をやめて、五モーセに言った「民があまりに多く携えて来るので、主がせよと命じられた組立ての工事には余ります」。六モーセは命令を發し、宿営中にふれさせて言った、「男も女も、もはや聖所のために、ささげ物をするに及ばない」。それで民は携えて来ることをやめた。七材料はすべての工事をするのにじゅうぶんで、かつ余るからである。

八すべて工をする者のうちの心に知恵ある者は、十枚の幕で幕屋をつつた。すなわち亜麻の撚糸、青糸、紫糸、緋糸で造り、巧みなわざをもって、それにケルビムを織り出した。九幕の長さは、おのおの二十八キュビト、幕の幅は、おのおの四キュビトで、幕はみな同じ寸法である。

一〇その幕五枚を互に連ね合わせ、また他の五枚の幕をも互に連ね合わせ、二その一連の端にある幕の縁に青色の乳をつけ、他の一連の端にある幕の縁にも、そのよう

にした。三その一枚の幕に乳五十をつけ、他の一連の幕の端にも、乳五十をつけた。その乳を互に相向かわせた。四そして金の輪五十を作り、その輪で、幕を互に連ね合わせたので、一つの幕屋になった。

二また、やぎの毛糸で幕を作り、幕屋をおおう天幕にした。すなわち幕十一枚を作った。一五おのおのの幕の長さは三十キュビト、おのおのの幕の幅は四キュビトで、その十一枚の幕は同じ寸法である。一六そして、その幕五枚を一つに連ね合わせ、また、その幕六枚を一つに連ね合わせ、一七その一連の端にある幕の縁に、乳五十をつけ、他の一連の幕の縁にも、乳五十をつけた。一八そして、青銅の輪五十を作り、その天幕を連ね合わせて一つにした。一九また、あかね染めの雄羊の皮で、天幕のおおいと、じゅうごんの皮で、その上にかけるおおいとを作った。

二〇また幕屋のためにアカシヤ材をもって、立枠を造った。二一枠の長さは十キュビト、枠の幅は、おのおの一キュビト半とし、二二枠ごとに二つの柄を造って、かれとこれとをくい合わせ、幕屋のすべての枠にこのようにした。二三幕屋のために枠を造った。すなわち南側のために枠に枠二十を造った。二四その二十の枠の下に銀の座四十を造って、この枠の下に、その二つの柄のために二つの座を置き、かの枠の下にも、その二つの柄のために二つの座を置いた。二五また幕屋の他の側、すなわち北側のためにも枠二十を造った。二六その銀の座四十を造って、こ

の杵の下にも二つの座を置き、かの杵の下にも二つの座を置いた。二七また幕屋のうしろ、西側のために杵六つを造り、二八幕屋のうしろの二つのすみのために杵二つを造った。二九これらは、下で重なり合い、同じくその頂でも第一の環まで重なり合うようにし、その二つとも二つのすみのために、そのように造った。三〇こうして、その杵は八つ、その銀の座は十六、おのおのの杵の下に、二つずつ座があった。

三二またアカシヤ材の横木を造った。すなわち幕屋の側の杵のために五つ、三三また幕屋のかの側の杵のために横木五つ、幕屋のうしろの西側の杵のために横木五つを造った。三三杵のまん中にある中央の横木は、端から端まで通るようにした。三四そして、その杵を金でおおい、また横木を通すその環を金で造り、またその横木を金でおおった。

三五また青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸で、垂幕を作り、巧みなわざをもつて、それにケルビムを織り出した。三六また、これがためにアカシヤ材の柱四本を作り、金でこれをおおい、その鉤を金にし、その柱のために銀の座四つを鑄た。三七また幕屋の入口のために青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸で、色とりどりに織ったとばりを作った。三八その柱五本と、その鉤とを造り、その柱の頭と桁とを金でおおった。ただし、その五つの座は青銅であつた。

第三十七章 一ベザレルはアカシヤ材の箱を造った。

長さは二キュビト半、幅は一キュビト半、高さは一キュビト半である。二純金で、内そとをおおい、その周囲に金の飾り縁を造った。三また金の環四つを鑄て、その四すみに取りつけた。すなわち二つの環をこちらの側に、二つの環をあちらの側に取りつけた。四またアカシヤ材のさおを造り、金でこれをおおい、五そのさおを箱の側面の環に通して、箱をかつぐようにした。六また純金で贖罪所を造った。長さは二キュビト半、幅は一キュビト半である。七また金で、二つのケルビムを造った。すなわち、これを打物造りとし、贖罪所の両端に置いた。八一つのケルプをこの端に、一つのケルプをかの端に置いた。すなわちケルビムを贖罪所の一部として、その両端に造った。九ケルビムは翼を高く伸べ、その翼で贖罪所をおおい、顔は互に向かい合った。すなわちケルビムの顔は贖罪所に向かつていた。

一〇またアカシヤ材で、机を造った。長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一キュビト半である。二純金でこれをおおい、その周囲に金の飾り縁を造った。三またその周囲に手幅の機を造り、その周囲の機に金の飾り縁を造った。四またこれがために金の環四つを鑄て、その四つの足のすみ四か所にその環を取りつけた。五その環は機のわきにあつて、机をかつぐさおを入れる所とした。六またアカシヤ材で、机をかつぐさおを造り、金でこれ

をおおった。一六また机の上の器、すなわちその皿、乳香を盛る杯および灌祭を注ぐための鉢と瓶とを純金で造った。

一七また純金の燭台を造った。すなわち打物造りで燭台を造り、その台、幹、節、花を一つに連ねた。一八また六つの枝をそのわきから出させた。すなわち燭台の三つの枝をこの側から、燭台の三つの枝をかの側から出させた。一九あめんどうの花の形をした三つの萼が、節と花とをもつて、この枝にあり、また、あめんどうの花の形をした三つの萼が、節と花とをもつて、かの枝にあり、燭台から出る六つの枝をみなそのようにした。二〇また燭台の幹には、あめんどうの花の形をした四つの萼を、その節と花とをもたせて取りつけた。二一また二つの枝の下に一つの節を取りつけ、次の二つの枝の下に一つの節を取りつけ、さらに次の二つの枝の下に一つの節を取りつけ、燭台の幹から出る六つの枝に、みなそのようにした。二三それらの節と枝を一つに連ね、ことごとく純金の打物造りとした。二四また、それのともしび皿七つと、その芯切りばさみと、芯取り皿とを純金で造った。二五すなわち純金一タラントをもって、燭台とそのすべての器とを造った。

二六またアカシヤ材で香の祭壇を造った。長さ一キュビト、幅一キュビトの四角にし、高さ二キュビトで、これにその一部として角をつけた。二七そして、その頂、そ

の周囲の側面、その角を純金でおおい、その周囲に金の飾り縁を造った。二八また、その両側に、飾り縁の下に金の環二つを、そのために造った。すなわちその二つの側にこれを造った。これはそれがかつぐさおを通す所である。二九そのさおはアカシヤ材で造り、金でこれをおおった。

三〇また香料を造るわざにしたがつて、聖なる注ぎ油と純粹の香料の薫香とを造った。

第三十八章

一またアカシヤ材で燔祭の祭壇を造った。長さ五キュビト、幅五キュビトの四角で、高さは三

キュビトである。二その四すみの上に、その一部として、その角を造り、青銅で祭壇をおおった。三また祭壇のもろもろの器、すなわち、つば、十能、鉢、肉叉、火皿を造った。そのすべての器を青銅で造った。四また祭壇のために、青銅の網細工の格子を造り、これを祭壇の出張りの下に取りつけて、祭壇の高さの半ばに達するようにした。五また青銅の格子の四すみのために、環四つを鑄て、さおを通す所とした。六アカシヤ材で、そのさおを造り、青銅でこれをおおい、七そのさおを祭壇の両側にある環に通して、それをかつぐようにした。祭壇は板をもつて、空洞に造った。

八また洗盤と、その台を青銅で造った。すなわち会見の幕屋の入口で務をなす女たちの鏡をもつて造った。

九また庭を造った。その南側のために百キュビトの垂

麻の燃糸の庭のあげばりを設けた。その柱は二十、その柱の二十の座は青銅で、その柱の鉤と桁は銀とした。また北側のためにも百キュビトのあげばりを設けた。その柱二十、その柱の二十の座は青銅で、その柱の鉤と桁は銀とした。また西側のために、五十キュビトのあげばりを設けた。その柱は十、その座も十で、その柱の鉤と桁は銀とした。また東側のために、五十キュビトのあげばりを設けた。その柱は三つ、その座も三つ。また他の一方にも、同じようにした。すなわち庭の門のこなたかなたともに、十五キュビトのあげばりを設けた。その柱は三つ、その座も三つ。庭の周囲のあげばりはみな垂麻の燃糸である。柱の座は青銅、柱の鉤と桁とは銀、柱の頭のおおいも銀である。庭の柱はみな銀の桁で連ねた。庭の門のとりは青糸、紫糸、緋糸、垂麻の燃糸で、色とりどりに織ったものであった。長さは二十キュビト、幅なる高さは五キュビトで、庭のあげばりと等しかった。その柱は四つ、その座も四つで、ともに青銅。その鉤は銀、柱の頭のおおいと桁は銀である。ただし、幕屋および、その周囲の庭の釘はみな青銅であつた。

三幕屋、すなわちあかしの幕屋に用いた物の総計は次のとおりである。すなわちモーセの命に従い、祭司アロンの子イタマルがレビびとを用いて量ったものである。

三ユダの部族に属するホルの子なるウリの子ベザレルは、主がモーセに命じられた事をことごとくした。三ダンの部族に属するアヒサマクの子アホリアブは彼と共にあつて彫刻、浮き織をなし、また青糸、紫糸、緋糸、垂麻糸で、縫取りをする者であつた。

二聖所のもろもろの工作に用いたすべての金、すなわち、ささげ物なる金は聖所のシケルで、二十九タラント七百三十シケルであつた。三会衆のうちの数えられた者のささげた銀は聖所のシケルで、百タラント千七百七十五シケルであつた。四これはひとり当り一ベカ、すなわち聖所のシケルの半シケルであつて、すべて二十歳以上で数えられた者が六十万三千五百五十人であつたからである。五聖所の座と垂幕の座とを鑄るために用いた銀は百タラントであつた。すなわち百座につき百タラント、一座につき一タラントである。六また千七百七十五シケルで柱の鉤を造り、また柱の頭をおおい、柱のために桁を造つた。七ささげ物なる青銅は七十タラント二千四百シケルであつた。八これを用いて会見の幕屋の入口の座、青銅の祭壇と、それにつく青銅の格子、および祭壇のもろもろの器を造つた。九また庭の周囲の座、庭の門の座、および幕屋のもろもろの釘と、庭の周囲のもろもろの釘を造つた。

第三九章 彼らは青糸、紫糸、緋糸で、聖所の務のための編物の服を作つた。またアロンのために聖なる

服を作った。主がモーセに命じられたとおりである。

二また金糸、青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸でエポデを作った。三また金を打ち延べて板とし、これを切つて糸とし、青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸に交えて、巧みな細工とした。四また、これがために肩ひもを作つてこれにつけ、その両端でこれにつけた。五エポデの上で、これをつかねる帯は、同じきれで、同じように、金糸、青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸で作った。主がモーセに命じられたとおりである。

六また、縞めのうを細工して、金糸の編細工にはめ、これに印を彫刻するように、イスラエルの子たちの名を刻み、七これをエポデの肩ひもにつけて、イスラエルの子たちの記念の石とした。主がモーセに命じられたとおりである。

八また胸当を巧みなわざをもつて、エポデの作りのように作った。すなわち金糸、青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸で作った。九胸当は二つに折つて四角にした。すなわち二つに折つて、長さを一指当りとし、幅も一指当りとした。一〇その中に宝石四列をはめた。すなわち、紅玉髓、貴かんらん石、水晶の列を第一列とし、二第二列は、ざくろ石、るり、赤縞めのう、三第三列は黄水晶、めのう、紫水晶、四第四列は黄碧玉、縞めのう、碧玉であつて、これらを金の編細工の中にはめ込んだ。一四その宝石はイスラエルの子たちの名にしたがい、その名と等しく

十二とし、おのおの印の彫刻のように、十二部族のためにその名を刻んだ。一五またひも細工にねじた純金のくさりを胸当につけた。一六また金の二つの編細工と、二つの金の環とを作り、その二つの環を胸当の両端につけた。一七かの二筋の金のひもを胸当の端の二つの環につけた。一八ただし、その二筋のひもの他の両端を、かの二つの編細工につけ、エポデの肩ひもにつけて前にくるようにした。一九また二つの金の環を作つて、これを胸当の両端につけた。二〇すなわちエポデに接する内側の縁にこれをつけた。二一また金の環二つを作つて、これをエポデの二つの肩ひもの下の部分につけ、前の方で、そのつなぎ目に近く、エポデの帯の上の方にくるようにした。二二胸当は青ひもをもつて、その環をエポデの環に結びつけ、エポデの帯の上の方にくるようにした。こうして、胸当がエポデから離れないようにした。主がモーセに命じられたとおりである。

二三またエポデに属する上服は、すべて青地の織物で作った。二四上服の口はそのまん中にあつて、その口の周囲には、よろいのえりのように縁をつけて、ほころびないようにした。二五上服のすそには青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸で、ざくろを作りつけ、二六また純金で鈴を作り、その鈴を上服のすその周囲の、ざくろとざくろとの間につけた。二七すなわち鈴にざくろ、鈴にざくろと、務の上服のすその周囲につけた。主がモーセに命じられたとお

りである。

二七またアロンとその子たちのために、亜麻糸で織った下服を作り、二八亜麻布で帽子を作り、亜麻布で麗しい頭布を作り、亜麻の撚糸の布で、下ばきを作り、二九亜麻の撚糸および青糸、紫糸、緋糸で、色とりどりに織った帯を作った。主がモーセに命じられたとおりである。

三〇また純金をもつて、聖なる冠の前板を作り、印の彫刻のように、その上に「主に聖なる者」という文字を書き、三三これに青ひもをつけて、それを帽子の上に結びつけた。主がモーセに命じられたとおりである。

三三こうして会見の天幕なる幕屋の、もろもろの工事が終わった。イスラエルの人々はすべて主がモーセに命じられたようにおこなった。三三彼らは幕屋と天幕およびそのもろもろの器をモーセのもとに携えてきた。すなわち、その鉤、その杵、その横木、その柱、その座、三六あかね染めの雄羊の皮のおおい、じゅごんの皮のおおい、隔ての垂幕、三五あかしの箱と、そのさお、贖罪所、三六机と、そのもろもろの器、供えのパン、三七純金の燭台と、そのともしび皿、すなわち列に並べるともしび皿と、そのもろもろの器、およびそのともしび油、三八金の祭壇、注ぎ油、香ばしい薫香、幕屋の入口のどばり、三九青銅の祭壇、その青銅の格子と、そのさお、およびそのもろもろの器、洗盤とその台、四〇庭のあげばり、その柱とその座、庭の門のどばり、そのひもとその釘、また会見の天幕の幕屋

に用いるもろもろの器、四二聖所で務をなす編物の服、すなわち祭司の務をなすための祭司アロンの聖なる服およびその子たちの服。四三イスラエルの人々は、すべて主がモーセに命じられたように、そのすべての工事をした。四四モーセがそのすべての工事を見ると、彼らは主が命じられたとおりに、それをなしとげていたので、モーセは彼らを祝福した。

第四〇章 一主はモーセに言われた。二正月の元日にあなたは会見の天幕なる幕屋を建てなければならぬ。三そして、その中にあかしの箱を置き、垂幕で、箱を隔て隠し、四また、机を携え入れ、それに並べるものを並べ、燭台を携え入れて、そのともしびをともしなければならぬ。五あなたはまた金の香の祭壇を、あかしの箱の前にすえ、とばりを幕屋の入口にかけなければならぬ。六また燔祭の祭壇を会見の天幕なる幕屋の入口の前にすえ、七洗盤を会見の天幕と祭壇との間にすえて、これに水を入れなければならぬ。八また周囲に庭を設け、庭の門にとばりをかけなければならぬ。九そして注ぎ油をとって、幕屋とその中のすべてのものに注ぎ、それとそのもろもろの器とを聖別しなければならぬ。こうして、それは聖となるであらう。一〇あなたはまた燔祭の祭壇と、そのすべての器に油を注いで、その祭壇を聖別しなければならぬ。こうして祭壇は、いと聖なるものとなるであらう。二また洗盤と、その台とに油を注いで、

これを聖別し、三アロンとその子たちを会見の幕屋の入口に連れてきて、水で彼らを洗い、三アロンに聖なる服を着せ、これに油を注いで聖別し、祭司の務をさせなければならぬ。二四また彼の子たちを連れてきて、これに服を着せ、二五その父に油を注いだように、彼らにも油を注いで、祭司の務をさせなければならぬ。彼らが油をそがれることは、代々なく祭司職のためになすべきことである。

二六モーセはそのように行つた。すなわち主が彼に命じられたように行つた。二七第二年の正月になって、その月の元日に幕屋は建つた。二八すなわちモーセは幕屋を建て、その座をすえ、その杵を立て、その横木をさし込み、その柱を立て、二九幕屋の上に天幕をひろげ、その上に天幕のおおいをかけた。主がモーセに命じられたとおりである。三〇彼はまたあかしの板をとって箱に納め、さおを箱につけ、贖罪所を箱の上に置き、三箱を幕屋に携え入れ、隔ての垂幕をかけて、あかしの箱を隠した。主がモーセに命じられたとおりである。三二彼はまた会見の天幕なる幕屋の内部の北側、垂幕の外に机をすえ、三三その上にパンを列に並べて、主の前に供えた。主がモーセに命じられたとおりである。三四彼はまた会見の天幕なる幕屋の内部の南側に、机にむかい合せて燭台をすえ、三五主の前にともしびをともした。主がモーセに命じられたとおりである。三六彼は会見の幕屋の中、垂幕の前に金の祭

壇をすえ、三七その上に香ばしい薫香をたいた。主がモーセに命じられたとおりである。三八彼はまた幕屋の入口にとばりをかけ、三九燔祭の祭壇を会見の天幕なる幕屋の入口にすえ、その上に燔祭と素祭をささげた。主がモーセに命じられたとおりである。四〇彼はまた会見の天幕と祭壇との間に洗盤を置き、洗うためにそれに水を入れた。四一モーセとアロンおよびその子たちは、それで手と足を洗つた。四二すなわち会見の天幕にはいるとき、また祭壇に近づくとき、そこで洗つた。主がモーセに命じられたとおりである。四三また幕屋と祭壇の周囲に庭を設け、庭の門にとばりをかけた。このようにしてモーセはその工事を終えた。

四四そのとき、雲は会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。四五モーセは会見の幕屋に、はいることができなかった。雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていたからである。四六雲が幕屋の上からのぼる時、イスラエルの人々は道に進んだ。彼らはその旅路において常にそうした。四七しかし、雲がのぼらない時は、そののぼる日まで道に進まなかった。四八すなわちイスラエルの家のすべての者の前に、昼は幕屋の上に主の雲があり、夜は雲の中に火があった。彼らの旅路において常にそうであった。